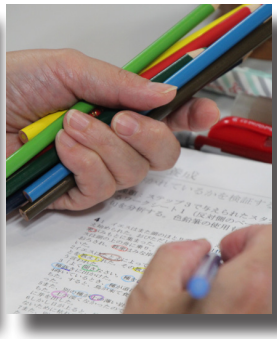
わがたましいよ。
主をほめたたえよ。



詩篇の学び

ミニストリーに携わる日本人女性のためのリニューアル修養会

日本　千葉県

２０１８年２月１４日ー１８日

詩篇の学び

スケジュール

7

５日間の流れの詳細です。

ジャーナル

9 － 48

毎日の学びと考察のためにこれらのページを使ってください。
セッションごと、日毎のジャーナル様式にまとめられています。
学びのためのガイドも含まれていますがメモや、日々の考察を書くための余白ですので、学びのために使ってください。

学びのためのガイド

詩篇の構成
49-50

詩篇の歌のタイプ
51

詩篇語彙集
52-54

神様の本質を理解する：ヘセド
55-56

詩篇の概要
57-58

詩篇の構成を考察する
59

評価

61-62

みなさんの評価を率直に受け止め、リニューアルの評価を吟味し、修養会のプログラムを改善するためにご協力ください。

Come before Winter

Renewal for God's leaders around the world

２０１８年2月１４日

親愛なる主にある姉妹へ、

主の御名を賛美申し上げます。

このようにして参加者の皆様をお迎えすることができ、カムビフォーウィンターチーム一同、恵深き神様への感謝で満ち溢れております。日本初のカムビフォーウィンターリニューアル修養会開催にむけて、ここ３年間トレーニングを受けながら、祈りつつ、この日を心待ちにしてまいりました。ここにいる参加者の姉妹一人一人は、主によって選ばれ、主の導きの声に聞き従い集められた尊い奉仕者です。そのような素晴らしい姉妹のお顔を見渡す時、ひたすら偉大なる主の力と御計画の計り知れない恵の深さに驚くばかりです。

これからの５日間、皆様が、主の御臨在のうちに歩まれ、尽きることのない愛に満たされ、魂を新しくされ、主の恵に溢れる時を過ごしていただけますよう祈ります。そして、わたしたちは未熟な者ではありますが、その間、姉妹がたの手となり、足となり、皆さまに寄り添い、仕えることができるよう努めさせていただきます。

カムビフォーウィンターリニューアル修養会は、父なる神様から与えられた特別な贈り物です。ゆっくり休息し、主の御腕に優しく守られ、全てを主にお委ねしてお過ごしください。そして、リニューアル修養会の最後には、ここに集うすべての者が、主イエス・キリストの愛で新しくされ、喜びに溢れ、主の御名を賛美し、主にすべての御栄光をお返しして、家路に着くことができますよう祈っております。

在主
マクレイン智子
カムビフォーウィンター代表

著者:
カレン・アレクサンダー
Come before Winter, Inc.
www.comebeforewinter.org
karencbw@gmail.com
1600 High Lonesome
Leander, TX 78641 USA
携帯電話: +1-512-785-0607
電話: +1-512-216-2060

ジニーン・リース
Come before Winter, Inc.
www.comebeforewinter.org
jreesecbw14@gmail.com
1901 Morrow Lane
Abilene, TX 79601 USA
電話: +1-915-674-3794

編集:
ホーリー・エマリー
Come before Winter, Inc.
www.comebeforewinter.org
hollyemerycbw@gmail.com
612 Cox Drive
Irving TX 75062
携帯電話: +1-469-432-1456

翻訳者:
エデンフィールド尚子
naoko.edenfield@gmail.com
立川市錦町1-6-8
ラフィナタワー120
080-3424-8216

マクレイン智子
tomokomclain007@gmail.com
茨城県常陸太田市真弓町1622-3
0294-74-3810

このテキストをコピーしてお使いいただく際の留意点

このテキストの著作権は保護されていますので、ご使用される際には、karencbw@gmail.comまでメールでご連絡ください。本テキストをコピーされる際には著作権が侵されることがないようにご配慮ください。

スケジュール

時間	2月14日水曜日	2月15日木曜日	2月16日金曜日	2月17日土曜日	2月18日日曜日
7:30		7:30-8:00 **礼拝**	7:30-8:00 **礼拝**	7:30-8:00 **礼拝**	7:30-8:00 **参加者による礼拝**
8:00		8:00-8:50 **朝食**	8:00-8:50 **朝食**	8:00-8:50 **朝食**	8:00-8:50 **朝食**
9:00		9:00-9:50 **詩篇を理解する**	9:00-9:50 **意味を掘り下げる**	9:00-9:50 **自分の考えをまとめる**	9:00-9:30 **参加者チェックアウト**
9:30					9:30 **集合写真**
10:00		10:00-10:50 **御言葉に浸る** 1グループ: 構造的に読む 2グループ: 神学的に読む 3 & 4グループ: 第1部 祈りに満たされて読む	10:00-10:50 **御言葉に浸る** 1グループ&2: 第2部 祈りに満たされて読む 3グループ: 構造的に読む 4グループ: 神学的に読む	10:00-12:30 **各自の考えの分かち合い**	10:00--->**閉会の式** **聖餐式を含む**
11:00		11:00-11:50 **熟考:** グ1: 黙想; グ 2: アート; グ 3 & 4: 黙想	11:00-11:50 **熟考:** グ1 & 2: 活動; グ 3: 黙想: グ 4: アート		
12:00		12:00-12:30 **与えられた思いの話し合い**	12:00-12:30 **与えられた思いの話し合い**		
12:30		12:30-1:25 **昼食**	12:30-1:25 **昼食**	12:30-1:25 **昼食**	12:30-1:25 **昼食**
1:30		1:30-4:00 **再生と休息** 祈りの約束 1:30 - 2:15 2:20 - 3:05 コーヒーブレイク 3:10-3:55	1:30-4:00 **再生と休息** 祈りの約束 1:30 - 2:15 2:20 - 3:05 コーヒーブレイク 3:10-3:55	1:30--> **各自の考えの分かち合い**	
3:10				分かち合い後: 礼拝	
3:30	3:30-4:30 **受付**				
4:00		4:00-4:50 **御言葉に浸る** 1グループ&2: 第1部 祈りに満たされて読む 3グループ: 神学的に読む 4グループ: 構造的に読む	4:00-4:50 **御言葉に浸る** 1グループ: 神学的に読む 2グループ: 構造的に読む 3 & 4グループ: 第2部 祈りに満たされて読む	**再生と休息** コーヒーブレイク 4:00-4:30	
4:30	4:30-5:30 **挨拶及びオリエンテーション**				
5:00	5:45-7:15 **開会礼拝**	5:00-5:50 **熟考:** グ1 & 2: 黙想; グ 3: アート: グ 4: 黙想	5:00-5:50 **熟考:** グ1: アート; グ 2: 黙想; グ 3 & 4: 活動		
6:00		6:00-6:30 **与えられた思いの話し合い**	6:00-6:30 **与えられた思いの話し合い**		
6:45		6:45-7:20 **礼拝**	6:45-7:20 **礼拝**	6:30-7:15 **少人数の祈り会**	
7:30	7:30-8:25 **夕食**	7:30-8:25 **夕食**	7:30-8:25 **夕食**	7:30-9:30 **夕食祝賀会**	
8:30	8:30-9:10 **少人数の祈り会**	8:30-9:10 **少人数の祈り会**	8:30-9:10 **少人数の祈り会**		
9:15	9:15-9:30 **夜の祈り**	9:15-9:30 **夜の祈り**	9:15-9:30 **夜の祈り**	**終わりの祈り**	

語彙注釈

少人数の祈り会
夕方集まって1日の出来事を分かち合ったり、ともに祈ったりする3〜4人の少人数のグループ。グループのメンバーはその週の間、互いに助け合い、互いのために祈ります。

養成ブロック
詩篇103編を探索するにあたってのあなたを導くために用意された学び、熟考、分かち合いのための一区切り。1ブロックは、読解グループでの学びの後、1時間の個人の熟考の時間（活動的または受動的）があり、さらに30分のグループでの分かち合いで終わるように構成されています。スケージュルには4つのブロックが含まれ、木曜日と金曜日の午前と午後に集う予定になっています。

読解グループ
参加者が3つの観点から詩篇を聞き、分析することに焦点を合わせる学びの集まり:
- 構造的に−何を語っていますか?
- 神学的に−神について、そして人と神との関係について何を教えていますか?
- 祈り−祈りについて、また、祈り方について何を学ぶことができますか?

熟考への応答
読解グループの後に1時間の熟考の時間があります。読解グループのリーダーがこの熟考の時間を生かすかことができるようにいろいろ準備しています。この時間に行ういくつかの活動は「活動的」な熟考としてデザインされていますが、いずれも静かに瞑想するかのように、詩篇103に関してあなたが個人的に思いを巡らせ、またじっくり答えを探ることが必要です。

祈りの約束
あなたの奉仕や必要についての祈りと分かち合いのためのチームのメンバーとの1対1の祈り。

夕方の祈り
1日の終わりにもつ15分ほどの短い礼拝

ヘセド－主題

ヘセド：神と同意語となるヘブル語のことば：神の変わることのない、永遠で真実の愛

ヘセドは関係においてもっとも具体的に表れます。：関係性
ヘセドは一般的に相互関係を表しています：相関性
ヘセドは永続性と確信性を強調しています：永久性
ヘセドは常に行いを意味します：能動性

ヘセドな行いを
受けた者は、
同等の
ヘセドの行いを
喜んで返すこと
が望まれます。

ジャネーン・リース

ヘセド…

詩篇の歌を理解する

詩篇全体を見る

イスラエルの物語（捕囚前、捕囚、捕囚後）：

頌栄により詩篇は大きく5巻に分けられます。

方向性

方向性の喪失

方向性の回復

捕囚前

A. **第1巻：詩篇_____から_____。**
頌栄: 詩篇41:13
ほむべきかな。イスラエルの神、主。
とこしえから、とこしえまで。
アーメン。アーメン。

B. **第2巻：詩篇_____から_____。**
頌栄：詩篇72:18−19
ほむべきかな。神、主、イスラエルの神。
ただ、主ひとり、奇しいわざを行う。
とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。
その栄光は地に満ちわたれ。
アーメン。アーメン。

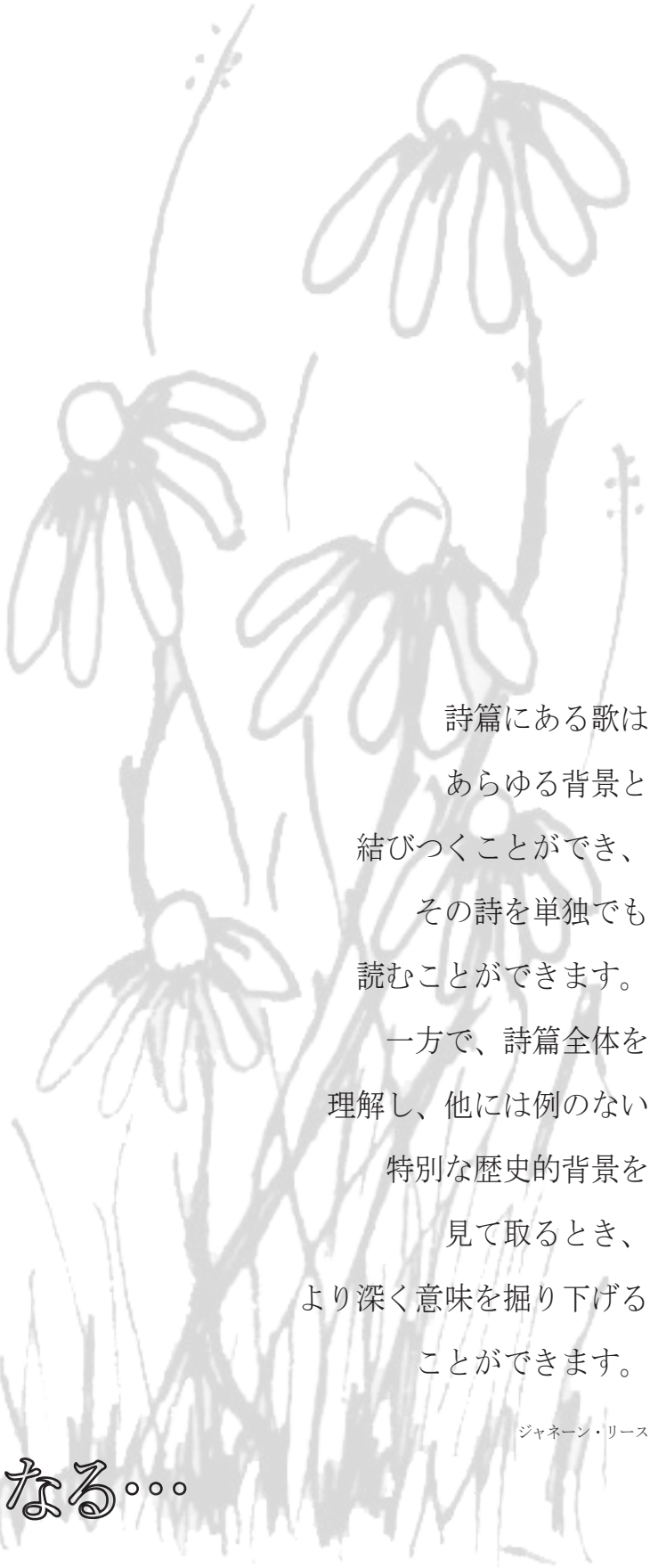
捕囚

C. **第3巻：詩篇_____から_____。**
頌栄：詩篇89:52
ほむべきかな。主。とこしえまでも。
アーメン。アーメン。

D. **第4巻：詩篇_____から_____。**
頌栄：詩篇106:48
ほむべきかな。イスラエルの神、主。
とこしえから、とこしえまで。
すべての民が、「アーメン」と言え。
ハレルヤ。

捕囚後

E. **第5巻：詩篇_____から_____。**
頌栄：詩篇150篇は詩篇全体に対しての頌栄と言えます。



詩篇にある歌は
あらゆる背景と
結びつくことができ、
その詩を単独でも
読むことができます。
一方で、詩篇全体を
理解し、他には例のない
特別な歴史的背景を
見て取るとき、
より深く意味を掘り下げる
ことができます。

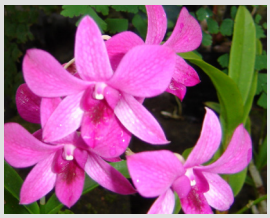
ジャネーン・リース

聖なる…

ジャーナル

木曜日

朝の読解グループ



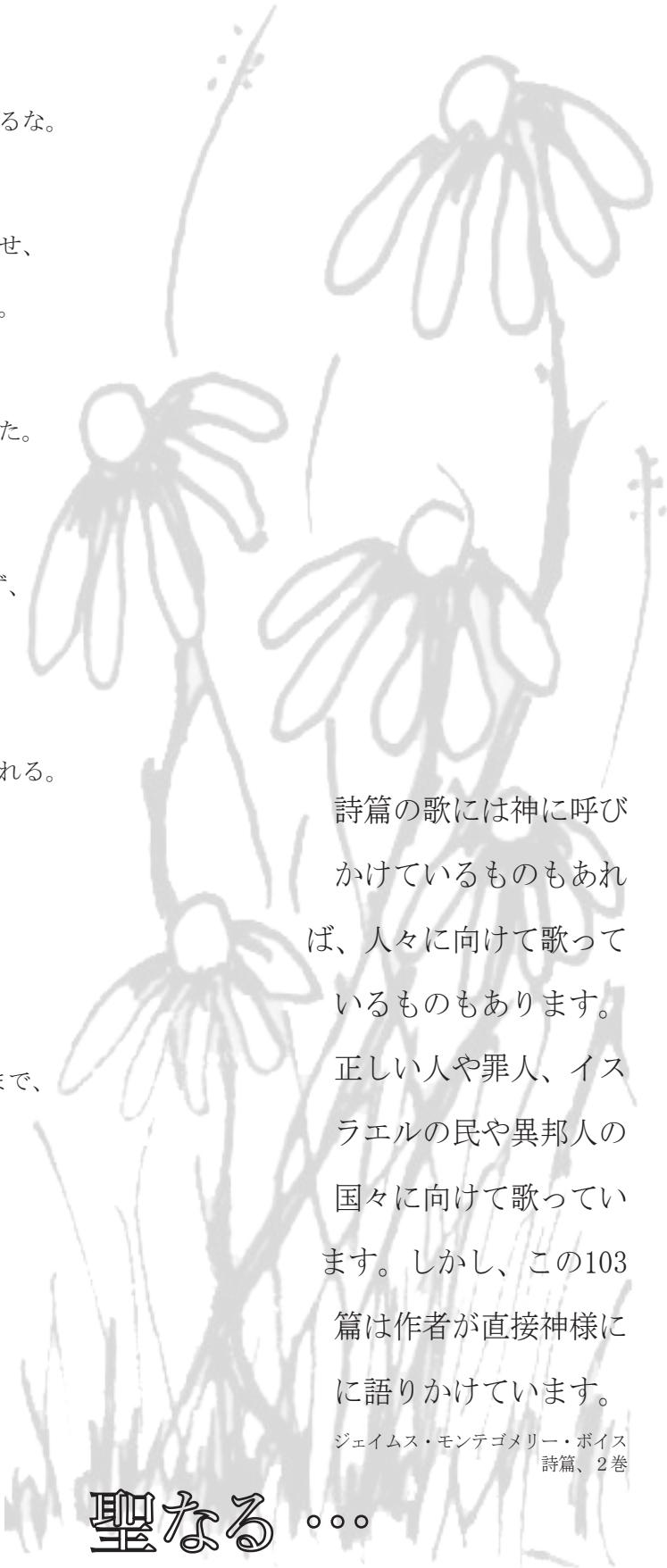
構造的に読む
本文が言っていることは何ですか?作者が伝えたいことはここではどのように語られていますか?この文の構造と内容は、作者の伝えたい意味にどのような影響を与えていますか?

神学的観点から読む
このことから、私たちは神について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは人について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは神と人との関係について何を学ぶことができますか?

第1部　祈りに満たされて
読む16-17ページを開く

詩篇103

ダビデによる
1わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　私のうちにあるすべてのものよ。
　　聖なる御名をほめたたえよ。
2わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
3主は、あなたのすべての咎を赦し、
　　あなたのすべての病をいやし、
4あなたのいのちを穴から贖い、
　　あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、
5あなたの一生を良いもので満たされる。
　　あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。
6主はすべてしいたげられている人々のために、
　　正義とさばきを行われる。
7主は、ご自身の道をモーセに、
　　そのみわざをイスラエルの子らに知らされた。
8主は、あわれみ深く、情け深い。
　　怒るのにおそく、恵み豊かである。
9主は、絶えず争ってはおられない。
　　いつまでも、怒ってはおられない。
10私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、
　　私たちの咎にしたがって
　　私たちに報いることもない。
11天が地上はるかに高いように、
　　御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。
12東が西から遠く離れているように、
　　私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。
13父がその子をあわれむように、
　　主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。
14主は、私たちの成り立ちを知り、
　　私たちがちりにすぎないことを
　　心に留めておられる。
15人の日は、草のよう。
　　野の花のように咲く。
16風がそこを過ぎると、それは、もはやない。
　　その場所すら、それを、知らない。
17しかし、主の恵みは、とこしえから、とこしえまで、
　　主を恐れる者の上にある。
　　主の義はその子らの子に及び、
18主の契約を守る者、
　　その戒めを心に留めて、行う者に及ぶ。
19主は天にその王座を堅く立て、
　　その王国はすべてを統べ治める。
20主をほめたたえよ。御使いたちよ。
　　みことばの声に聞き従い、
　　みことばを行う力ある勇士たちよ。
21主をほめたたえよ。
　　主のすべての軍勢よ。
　　みこころを行い、主に仕える者たちよ。
22主をほめたたえよ。
　　すべて造られたものたちよ。
　　主の治められるすべての所で。
　　わがたましいよ。主をほめたたえよ。



詩篇の歌には神に呼びかけているものもあれば、人々に向けて歌っているものもあります。正しい人や罪人、イスラエルの民や異邦人の国々に向けて歌っています。しかし、この103篇は作者が直接神様にに語りかけています。

ジェイムス・モンテゴメリー・ボイス
詩篇、2巻

聖なる…

朝の熟考

構造的に読む上での考慮点

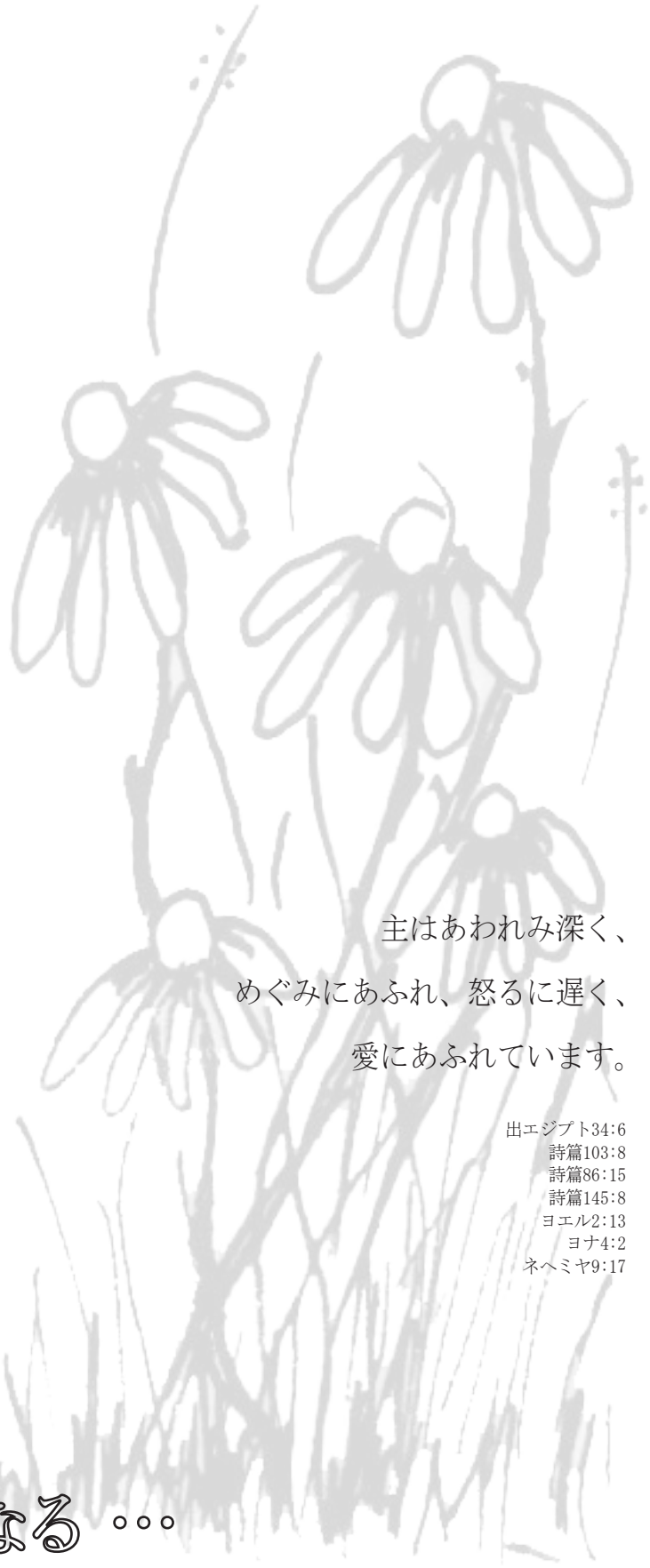
- 詩の始まりと終わりに注目する:1−2節と20−22節。この二つの賛美への呼びかけで似ている点は何ですか?異なっている点は何ですか?始めと終わりの共通点と相違点を説明するために本文の展開はどうなっていますか?主をほめたたようと心に決めることがどのように主の賛美の仕方に影響を与えますか?
- 詩篇の中で「主よ」で始まる聖句に下線を引いてください。それらの聖句を吟味し、なぜ神様は賛美に値するお方だと思いますか? そこに託された意味をよく理解するために、それぞれの節の後に続く節を参考にしてください。ここに述べられたことは単なる一覧ですか?それともこの順番にこだわった理由や展開に気づくことができますか?

神学的に読む上での考慮点

- 神について、人について、神と人との関係ついて何が話し合われたか考えてください。その話し合いが、あなたと神様との関係をどのように見るかに影響を与えましたか?
- 上記に挙げたことを思いながらアートの課題に取り組んでください。
- その過程で神様があなたに語られたことは何ですか?このページを使って神様が語られたメッセージについて書いてください。

祈りに満たされて読む上での考慮点

- このページを使って神様に宛てた手紙を書いてください。あなたの感情、いらつき、または必要だと思われることを正直にこの手紙に告白してください。最近、どの場所で神様の臨在を感じ、神様の不在を感じましたか? 神様により頼み、あなた自身とあなたの人生を、今まで以上に導いてくださるように神様を迎え入れてください。あなたのために成されたみわざを証ししたいことを伝え、あなたの人生や伝道活動、あなたが愛する人たち、あなたの人生の旅路を共に歩いている人々を、祝福してくださるように神様にお願いしてください。



主はあわれみ深く、
めぐみにあふれ、怒るに遅く、
愛にあふれています。

出エジプト34:6
詩篇103:8
詩篇86:15
詩篇145:8
ヨエル2:13
ヨナ4:2
ネヘミヤ9:17

聖なる…

第１部　祈りに満たされて読む

祈りに満たされて読む

詩篇を通して祈る時、まず、その詩を十分に理解することが大切です。

できるなら1回以上、詩篇をゆっくり読んでください。

以下の質問を自分に問いかけてください。

- この詩篇の語る物語について何を学ぶことができますか？
- この詩篇は神様と私自身について何を伝えようとしていますか？
- この詩篇のことば、構成、流れから学べることは何ですか？
- その詩篇からどのような感情を読み取ることができますか？

静かに座り、神様のみ声を聞けるように心を整えてください。詩篇の十分な理解を持って、詩篇のひとつひとつのまとまりを読み、祈ってください。詩篇のみ言葉があなたの考えを導くようにゆだねてください。そして、神様が語ろうとされていることに耳を傾け、そのことばの力を借りてあなたの思いを形にし、その詩篇のことばによってあなたはどのように変えられ、神のみ前により近づくことができるようになるかが聞こえてくるように耳を澄ませてください。

詩篇90

神の人モーセの祈り
1主よ。あなたは代々にわたって
私たちの住まいです。
2山々が生まれる前から、
あなたが地と世界とを生み出す前から、
まことに、とこしえからとこしえまで
あなたは神です。

3あなたは人をちりに帰らせて言われます。
「人の子らよ、帰れ。」
4まことに、あなたの目には、
千年も、きのうのように過ぎ去り、
夜回りのひとときのようです。

5あなたが人を押し流すと、
彼らは、眠りにおちます。
朝、彼らは移ろう草のようです。
6朝は、花を咲かせているが、また移ろい、
夕べには、しおれて枯れます。

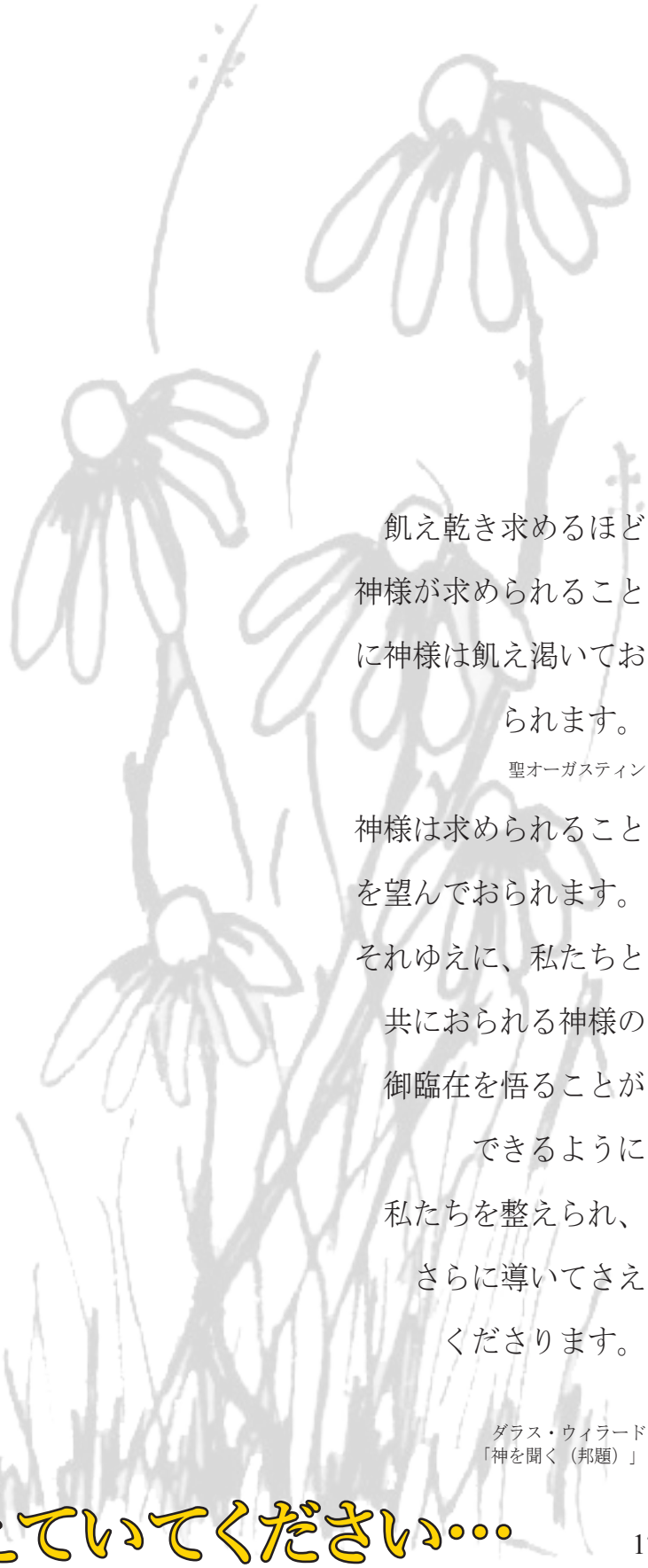
7まことに、私たちは
あなたの御怒りによって消えうせ、
あなたの激しい憤りにおじ惑います。
8あなたは私たちの不義を御前に、
私たちの秘めごとを御顔の光の中に置かれます。

9まことに、私たちのすべての日は
あなたの激しい怒りの中に沈み行き、
私たちは自分の齢をひと息のように終わらせます。
10私たちの齢は七十年。
健やかであっても八十年。
しかも、その誇りとするところは
労苦とわざわいです。
それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。

11だれが御怒りの力を知っているでしょう。
だれがあなたの激しい怒りを知っているでしょう。
その恐れにふさわしく。
12それゆえ、私たちに
自分の日を正しく数えることを教えてください。
そうして私たちに
知恵の心を得させてください。

13帰って来てください。
主よ。いつまでこのようなのですか。
あなたのしもべらを、あわれんでください。
14どうか、朝には、あなたの恵みで
私たちを満ち足らせ、
私たちのすべての日に、喜び歌い、
楽しむようにしてください。
15あなたが私たちを悩まされた日々と、
私たちがわざわいに会った年々に応じて、
私たちを楽しませてください。

16あなたのみわざをあなたのしもべらに、
あなたの威光を彼らの子らに見せてください。
17私たちの神、主のご慈愛が
私たちの上にありますように。
そして、私たちの手のわざを
確かなものにしてください。
どうか、私たちの手のわざを
確かなものにしてください。



飢え乾き求めるほど
神様が求められること
に神様は飢え渇いてお
られます。
聖オーガスティン

神様は求められること
を望んでおられます。
それゆえに、私たちと
共におられる神様の
御臨在を悟ることが
できるように
私たちを整えられ、
さらに導いてさえ
くださります。
ダラス・ウィラード
「神を聞く（邦題）」

覚えていてください…

ジャーナル

木曜日

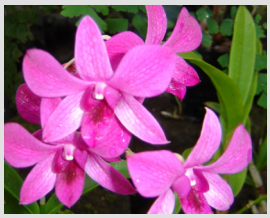
朝の話し合いを受けての考察

（詩篇の歌の）主語は、
ある一人のヘブル人を
指すのではなく、
イスラエルにいた
あるひとりの人を指します。

ハンス-ホアキム・クラウス
詩篇に見る神学（邦題）

聖なる…

午後の読解グループ



構造的に読む
本文が言っていることは何ですか?作者が伝えたいことはここではどのように語られていますか?この文の構造と内容は、作者の伝えたい意味にどのような影響を与えていますか?

神学的観点から読む
このことから、私たちは神について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは人について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは神と人との関係について何を学ぶことができますか?

第1部　祈りに満たされて
読む16-17ページを開く

詩篇103

ダビデによる
1わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　私のうちにあるすべてのものよ。
　　聖なる御名をほめたたえよ。
2わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
3主は、あなたのすべての咎を赦し、
　　あなたのすべての病をいやし、
4あなたのいのちを穴から贖い、
　　あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、
5あなたの一生を良いもので満たされる。
　　あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。
6主はすべてしいたげられている人々のために、
　　正義とさばきを行われる。
7主は、ご自身の道をモーセに、
　　そのみわざをイスラエルの子らに知らされた。
8主は、あわれみ深く、情け深い。
　　怒るのにおそく、恵み豊かである。
9主は、絶えず争ってはおられない。
　　いつまでも、怒ってはおられない。
10私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、
　　私たちの咎にしたがって
　　私たちに報いることもない。
11天が地上はるかに高いように、
　　御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。
12東が西から遠く離れているように、
　　私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。
13父がその子をあわれむように、
　　主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。
14主は、私たちの成り立ちを知り、
　　私たちがちりにすぎないことを
　　心に留めておられる。
15人の日は、草のよう。
　　野の花のように咲く。
16風がそこを過ぎると、それは、もはやない。
　　その場所すら、それを、知らない。
17しかし、主の恵みは、とこしえから、とこしえまで、
　　主を恐れる者の上にある。
　　主の義はその子らの子に及び、
18主の契約を守る者、
　　その戒めを心に留めて、行う者に及ぶ。
19主は天にその王座を堅く立て、
　　その王国はすべてを統べ治める。
20主をほめたたえよ。御使いたちよ。
　　みことばの声に聞き従い、
　　みことばを行う力ある勇士たちよ。
21主をほめたたえよ。
　　主のすべての軍勢よ。
　　みこころを行い、主に仕える者たちよ。
22主をほめたたえよ。
　　すべて造られたものたちよ。
　　主の治められるすべての所で。
　　わがたましいよ。主をほめたたえよ。

詩篇は、歴史上の神の偉業に注意を向けています。また、その偉業は「神の摂理」、「神の道」「神のみわざ」とも呼ばれています。神様の力あるみわざをとおしてのみ真の神様の本質を知ることができるのです。

ハッセル・ブルック
「詩篇と出会う（邦題）」

聖なる…

午後の熟考

構造的に読む上での考慮点

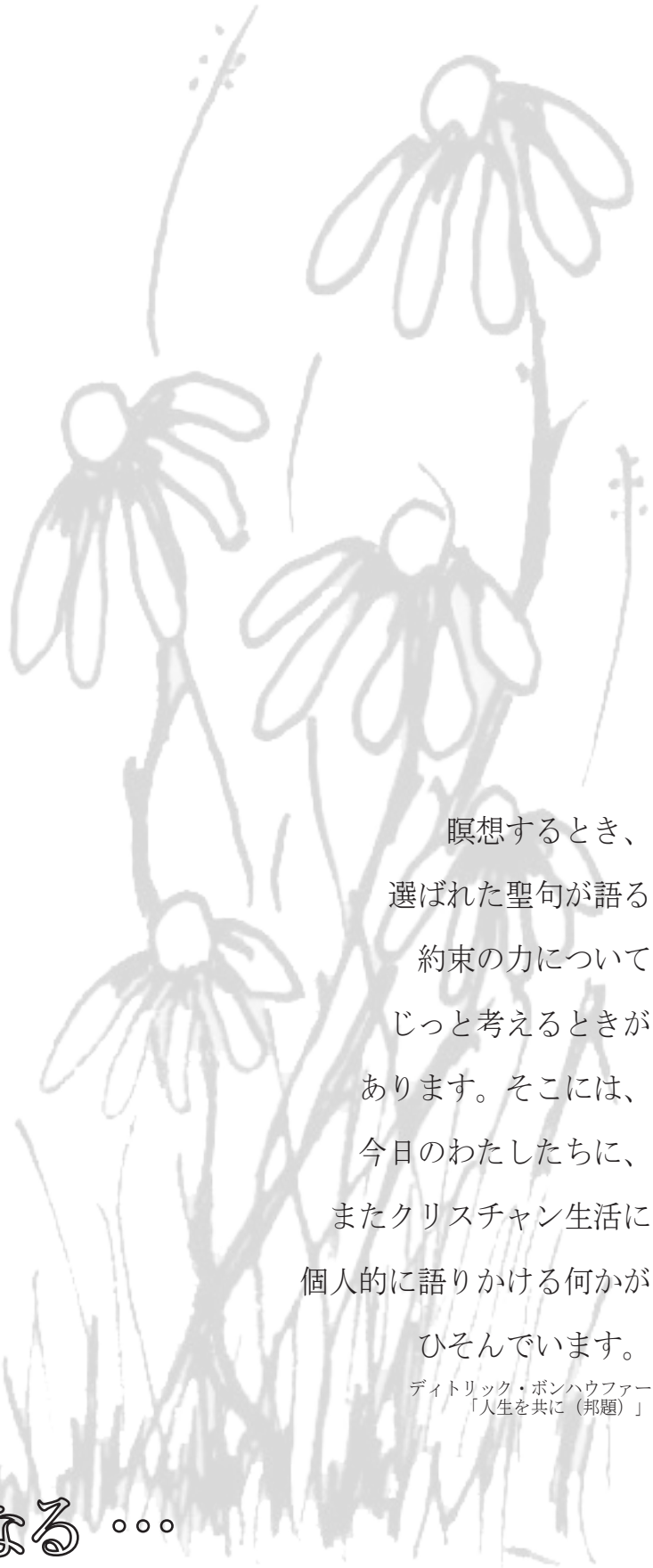
- 詩の始まりと終わりに注目する:1−2節と20−22節。この二つの賛美への呼びかけで似ている点は何ですか?異なっている点は何ですか?始めと終わりの共通点と相違点を説明するために本文の展開はどうなっていますか?主をほめたたようと心に決めることがどのように主の賛美の仕方に影響を与えますか?
- 詩篇の中で「主よ」で始まる聖句に下線を引いてください。それらの聖句を吟味し、なぜ神様は賛美に値するお方だと思いますか? そこに託された意味をよく理解するために、それぞれの節の後に続く節を参考にしてください。ここに述べられたことは単なる一覧ですか?それともこの順番にこだわった理由や展開に気づくことができますか?

神学的に読む上での考慮点

- 神について、人について、神と人との関係ついて何が話し合われたか考えてください。その話し合いが、あなたと神様との関係をどのように見るかに影響を与えましたか?
- 上記に挙げたことを思いながらアートの課題に取り組んでください。
- その過程で神様があなたに語られたことは何ですか?このページを使って神様が語られたメッセージについて書いてください。

祈りに満たされて読む上での考慮点

- このページを使って神様に宛てた手紙を書いてください。あなたの感情、いらつき、または必要だと思われることを正直にこの手紙に告白してください。最近、どの場所で神様の臨在を感じ、神様の不在を感じましたか? 神様により頼み、あなた自身とあなたの人生を、今まで以上に導いてくださるように神様を迎え入れてください。あなたのために成されたみわざを証ししたいことを伝え、あなたの人生や伝道活動、あなたが愛する人たち、あなたの人生の旅路を共に歩いている人々を、祝福してくださるように神様にお願いしてください。



瞑想するとき、
選ばれた聖句が語る
約束の力について
じっと考えるときが
あります。そこには、
今日のわたしたちに、
またクリスチャン生活に
個人的に語りかける何かが
ひそんでいます。

ディトリック・ボンハウファー
「人生を共に（邦題）」

聖なる…

ジャーナル

木曜日

午後の話し合いを受けての考察

聖霊が聖句を紐解かないなら、たとえ読まれたとしても理解されることはありません。

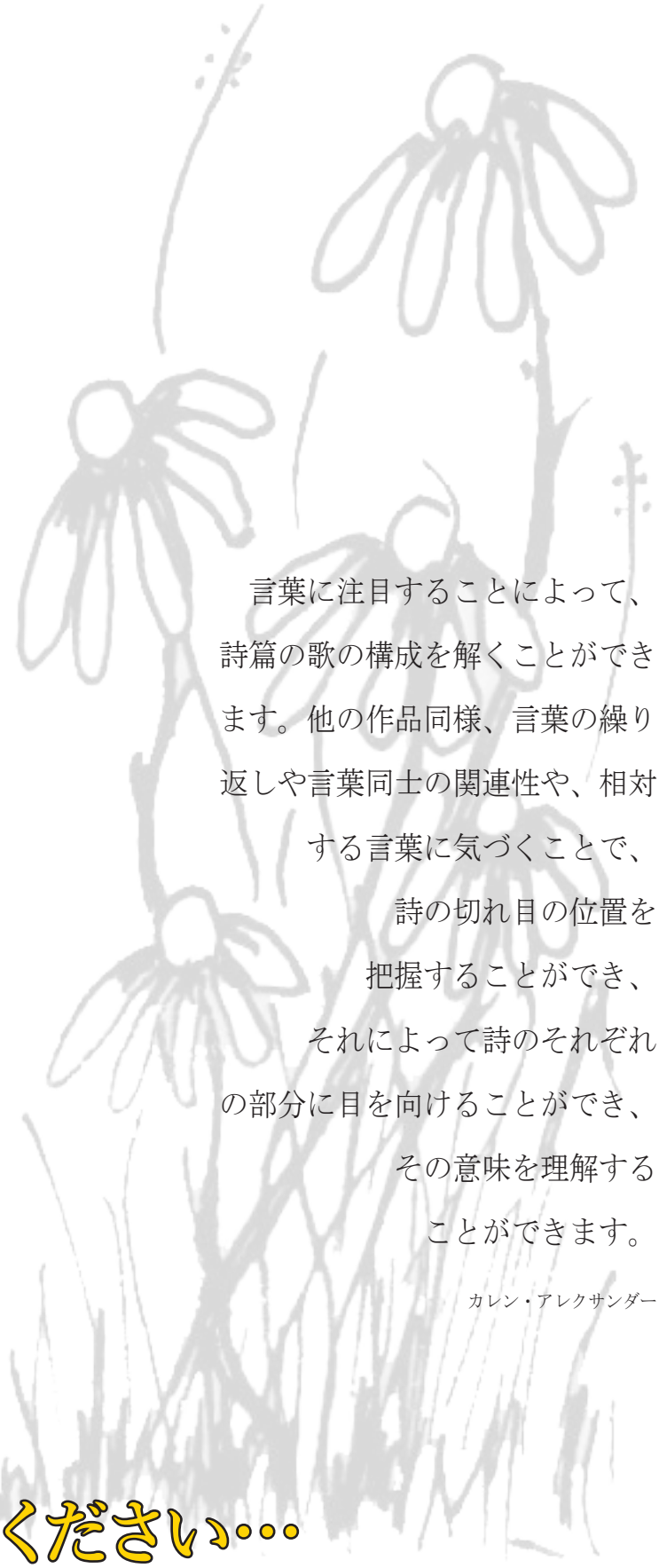
マーチン・ルター

聖なる…

ジャーナル

金曜日

意味を掘り下げる

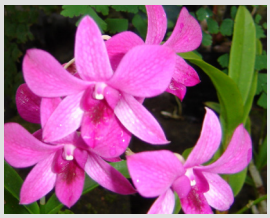


言葉に注目することによって、
詩篇の歌の構成を解くことができ
ます。他の作品同様、言葉の繰り
返しや言葉同士の関連性や、相対
する言葉に気づくことで、
詩の切れ目の位置を
把握することができ、
それによって詩のそれぞれ
の部分に目を向けることができ、
その意味を理解する
ことができます。

カレン・アレクサンダー

覚えていてください…

朝の読解グループ



構造的に読む
本文が言っていることは何ですか?作者が伝えたいことはここではどのように語られていますか?この文の構造と内容は、作者の伝えたい意味にどのような影響を与えていますか?

神学的観点から読む
このことから、私たちは神について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは人について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは神と人との関係について何を学ぶことができますか?

第2部　祈りに満たされて読む 32-33ページを開く

詩篇103

ダビデによる
1わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　私のうちにあるすべてのものよ。
　　聖なる御名をほめたたえよ。
2わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
3主は、あなたのすべての咎を赦し、
　　あなたのすべての病をいやし、
4あなたのいのちを穴から贖い、
　　あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、
5あなたの一生を良いもので満たされる。
　　あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。
6主はすべてしいたげられている人々のために、
　　正義とさばきを行われる。
7主は、ご自身の道をモーセに、
　　そのみわざをイスラエルの子らに知らされた。
8主は、あわれみ深く、情け深い。
　　怒るのにおそく、恵み豊かである。
9主は、絶えず争ってはおられない。
　　いつまでも、怒ってはおられない。
10私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、
　　私たちの咎にしたがって
　　私たちに報いることもない。
11天が地上はるかに高いように、
　　御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。
12東が西から遠く離れているように、
　　私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。
13父がその子をあわれむように、
　　主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。
14主は、私たちの成り立ちを知り、
　　私たちがちりにすぎないことを
　　心に留めておられる。
15人の日は、草のよう。
　　野の花のように咲く。
16風がそこを過ぎると、それは、もはやない。
　　その場所すら、それを、知らない。
17しかし、主の恵みは、とこしえから、とこしえまで、
　　主を恐れる者の上にある。
　　主の義はその子らの子に及び、
18主の契約を守る者、
　　その戒めを心に留めて、行う者に及ぶ。
19主は天にその王座を堅く立て、
　　その王国はすべてを統べ治める。
20主をほめたたえよ。御使いたちよ。
　　みことばの声に聞き従い、
　　みことばを行う力ある勇士たちよ。
21主をほめたたえよ。
　　主のすべての軍勢よ。
　　みこころを行い、主に仕える者たちよ。
22主をほめたたえよ。
　　すべて造られたものたちよ。
　　主の治められるすべての所で。
　　わがたましいよ。主をほめたたえよ。

畏敬の念は、
ことばを通すよりも、
沈黙を守ることで
より真実にちかく
より深く表されます。

ポール・ウッドロフ
「畏怖の念（邦題）」

覚えていてください…

朝の熟考

構造的に読む上での考慮点

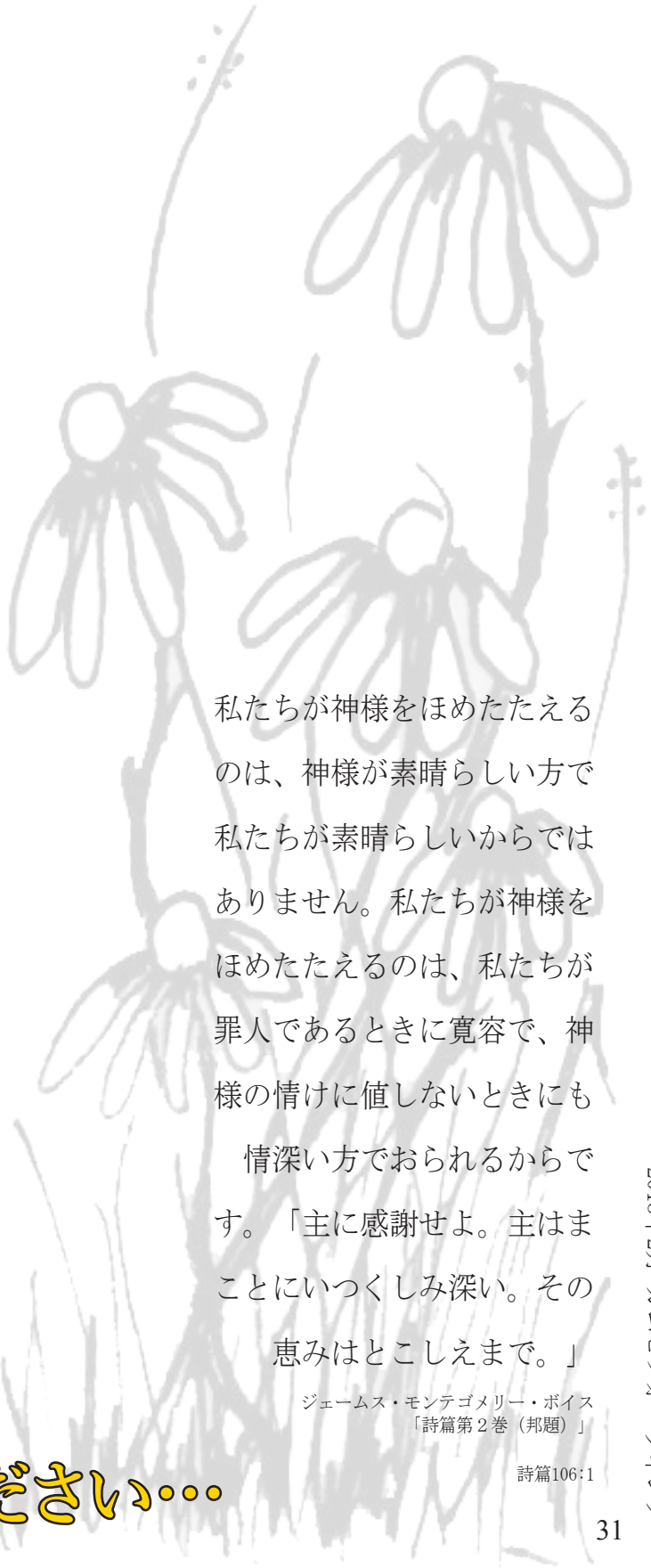
- 詩の始まりと終わりに注目する:1−2節と20−22節。この二つの賛美への呼びかけで似ている点は何ですか?異なっている点は何ですか?始めと終わりの共通点と相違点を説明するために本文の展開はどうなっていますか?主をほめたたようと心に決めることがどのように主の賛美の仕方に影響を与えますか?
- 詩篇の中で「主よ」で始まる聖句に下線を引いてください。それらの聖句を吟味し、なぜ神様は賛美に値するお方だと思いますか? そこに託された意味をよく理解するために、それぞれの節の後に続く節を参考にしてください。ここに述べられたことは単なる一覧ですか?それともこの順番にこだわった理由や展開に気づくことができますか?

神学的に読む上での考慮点

- 神について、人について、神と人との関係ついて何が話し合われたか考えてください。その話し合いが、あなたと神様との関係をどのように見るかに影響を与えましたか?
- 上記に挙げたことを思いながらアートの課題に取り組んでください。
- その過程で神様があなたに語られたことは何ですか?このページを使って神様が語られたメッセージについて書いてください。

祈りに満たされて読む上での考慮点

- この詩篇を祈るように読んだ後、体を伸ばしたり、深呼吸をしたり、自然の中を散策したり、あるいはあなたがしたいことがあればなんでも自由に行動したりして、主が語ることに引き続き耳を傾ける時間を持って下さい。読み進めながら神様のヘセドがあなたに溢れ出るように、あなたがヘセドを他の人に示すことができる方法を神様に示していただけるようにゆだねてください。



私たちが神様をほめたたえるのは、神様が素晴らしい方で私たちが素晴らしいからではありません。私たちが神様をほめたたえるのは、私たちが罪人であるときに寛容で、神様の情けに値しないときにも情深い方でおられるからです。「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで。」

ジェームス・モンテゴメリー・ボイス
「詩篇第２巻（邦題）」

詩篇106:1

覚えていてください…

第２部　祈りに満たされて読む

祈りに満たされて読む

詩篇を通して祈る時、まず、その詩を十分に理解することが大切です。

できるなら1回以上、詩篇をゆっくり読んでください。

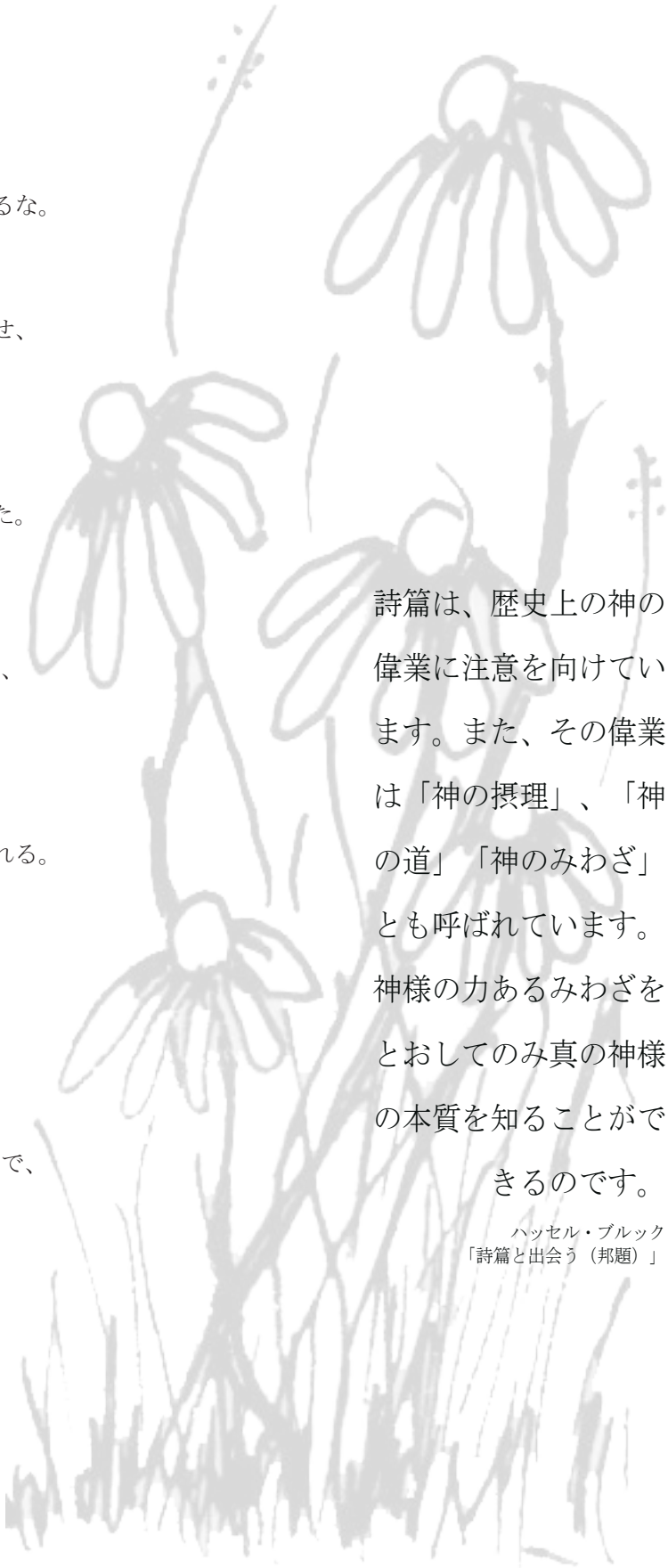
以下の質問を自分に問いかけてください。

- この詩篇の語る物語について何を学ぶことができますか？
- この詩篇は神様と私自身について何を伝えようとしていますか？
- この詩篇のことば、構成、流れから学べることは何ですか？
- その詩篇からどのような感情を読み取ることができますか？

静かに座り、神様のみ声を聞けるように心を整えてください。詩篇の十分な理解を持って、詩篇のひとつひとつのまとまりを読み、祈ってください。詩篇のみ言葉があなたの考えを導くようにゆだねてください。そして、神様が語ろうとされていることに耳を傾け、そのことばの力を借りてあなたの思いを形にし、その詩篇のことばによってあなたはどのように変えられ、神のみ前により近づくことができるようになるかが聞こえてくるように耳を澄ませてください。

詩篇103

ダビデによる
1わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　私のうちにあるすべてのものよ。
　　聖なる御名をほめたたえよ。
2わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
3主は、あなたのすべての咎を赦し、
　　あなたのすべての病をいやし、
4あなたのいのちを穴から贖い、
　　あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、
5あなたの一生を良いもので満たされる。
　　あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。
6主はすべてしいたげられている人々のために、
　　正義とさばきを行われる。
7主は、ご自身の道をモーセに、
　　そのみわざをイスラエルの子らに知らされた。
8主は、あわれみ深く、情け深い。
　　怒るのにおそく、恵み豊かである。
9主は、絶えず争ってはおられない。
　　いつまでも、怒ってはおられない。
10私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、
　　私たちの咎にしたがって
　　私たちに報いることもない。
11天が地上はるかに高いように、
　　御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。
12東が西から遠く離れているように、
　　私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。
13父がその子をあわれむように、
　　主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。
14主は、私たちの成り立ちを知り、
　　私たちがちりにすぎないことを
　　心に留めておられる。
15人の日は、草のよう。
　　野の花のように咲く。
16風がそこを過ぎると、それは、もはやない。
　　その場所すら、それを、知らない。
17しかし、主の恵みは、とこしえから、とこしえまで、
　　主を恐れる者の上にある。
　　主の義はその子らの子に及び、
18主の契約を守る者、
　　その戒めを心に留めて、行う者に及ぶ。
19主は天にその王座を堅く立て、
　　その王国はすべてを統べ治める。
20主をほめたたえよ。御使いたちよ。
　　みことばの声に聞き従い、
　　みことばを行う力ある勇士たちよ。
21主をほめたたえよ。
　　主のすべての軍勢よ。
　　みこころを行い、主に仕える者たちよ。
22主をほめたたえよ。
　　すべて造られたものたちよ。
　　主の治められるすべての所で。
　　わがたましいよ。主をほめたたえよ。



詩篇は、歴史上の神の偉業に注意を向けています。また、その偉業は「神の摂理」、「神の道」「神のみわざ」とも呼ばれています。神様の力あるみわざをとおしてのみ真の神様の本質を知ることができるのです。

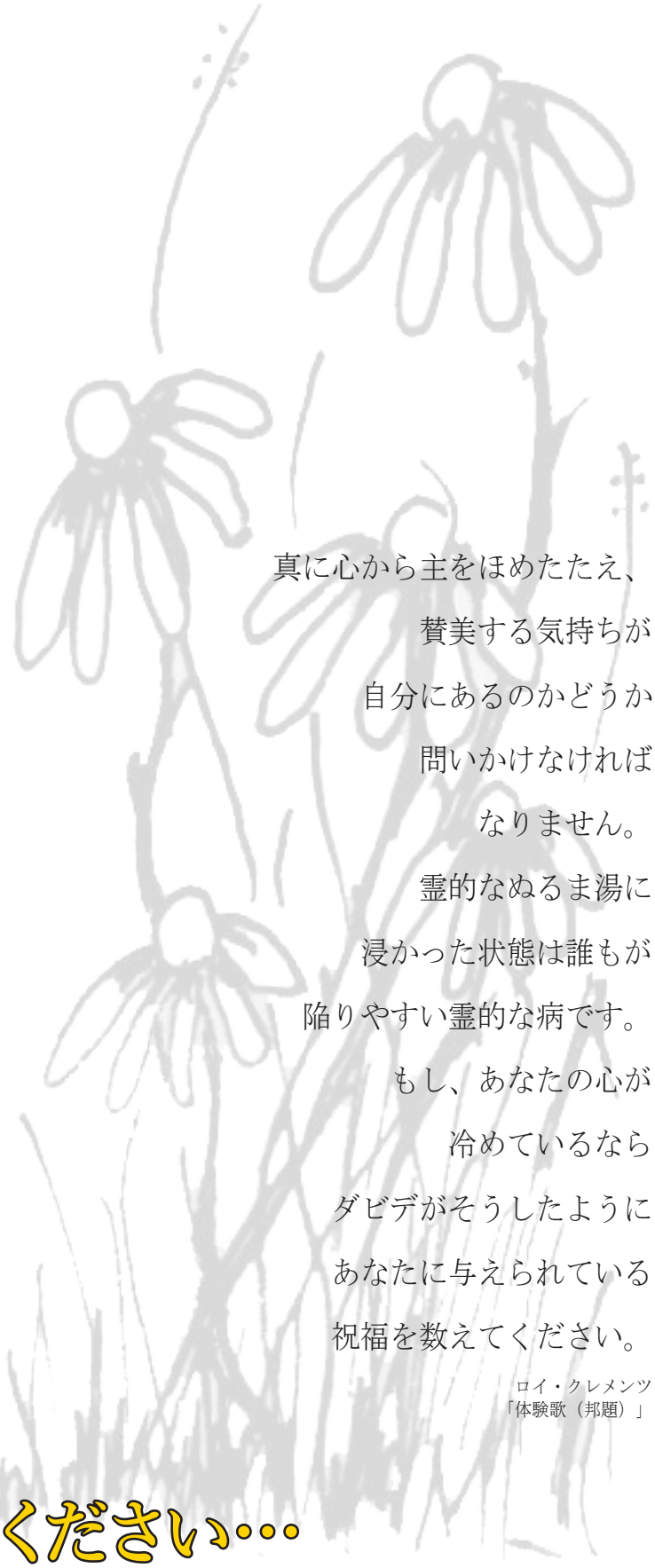
ハッセル・ブルック
「詩篇と出会う（邦題）」

覚えていてください…

ジャーナル

金曜日

朝の話し合いを受けての考察

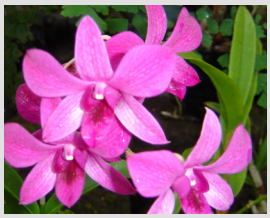


真に心から主をほめたたえ、
賛美する気持ちが
自分にあるのかどうか
問いかけなければ
なりません。
霊的なぬるま湯に
浸かった状態は誰もが
陥りやすい霊的な病です。
もし、あなたの心が
冷めているなら
ダビデがそうしたように
あなたに与えられている
祝福を数えてください。

ロイ・クレメンツ
「体験歌（邦題）」

覚えていてください…

午後の読解グループ



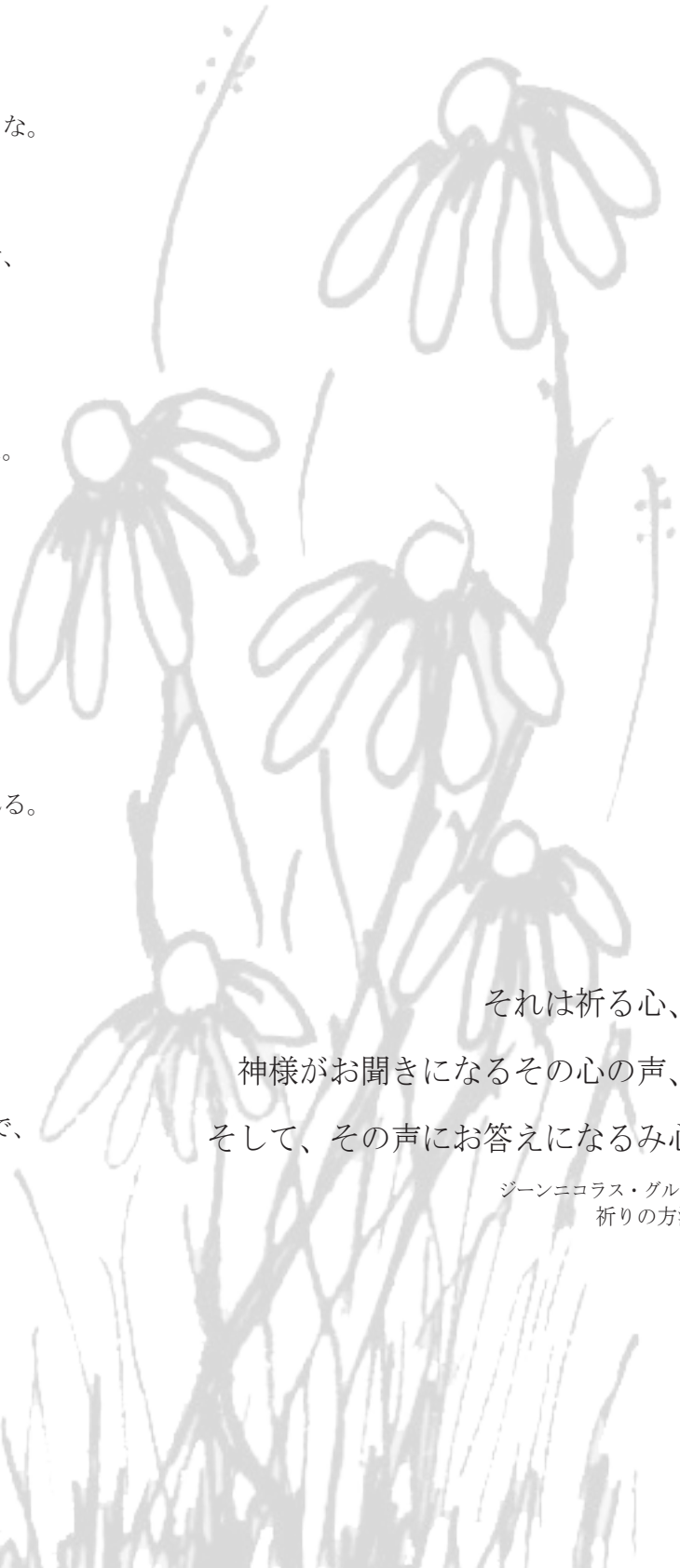
構造的に読む
本文が言っていることは何ですか?作者が伝えたいことはここではどのように語られていますか?この文の構造と内容は、作者の伝えたい意味にどのような影響を与えていますか?

神学的観点から読む
このことから、私たちは神について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは人について何を学ぶことができますか? このことから、私たちは神と人との関係について何を学ぶことができますか?

第2部　祈りに満たされて読む32-33ページを開く

詩篇103

ダビデによる
1わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　私のうちにあるすべてのものよ。
　　聖なる御名をほめたたえよ。
2わがたましいよ。主をほめたたえよ。
　　主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
3主は、あなたのすべての咎を赦し、
　　あなたのすべての病をいやし、
4あなたのいのちを穴から贖い、
　　あなたに、恵みとあわれみとの冠をかぶらせ、
5あなたの一生を良いもので満たされる。
　　あなたの若さは、鷲のように、新しくなる。
6主はすべてしいたげられている人々のために、
　　正義とさばきを行われる。
7主は、ご自身の道をモーセに、
　　そのみわざをイスラエルの子らに知らされた。
8主は、あわれみ深く、情け深い。
　　怒るのにおそく、恵み豊かである。
9主は、絶えず争ってはおられない。
　　いつまでも、怒ってはおられない。
10私たちの罪にしたがって私たちを扱うことをせず、
　　私たちの咎にしたがって
　　私たちに報いることもない。
11天が地上はるかに高いように、
　　御恵みは、主を恐れる者の上に大きい。
12東が西から遠く離れているように、
　　私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。
13父がその子をあわれむように、
　　主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。
14主は、私たちの成り立ちを知り、
　　私たちがちりにすぎないことを
　　心に留めておられる。
15人の日は、草のよう。
　　野の花のように咲く。
16風がそこを過ぎると、それは、もはやない。
　　その場所すら、それを、知らない。
17しかし、主の恵みは、とこしえから、とこしえまで、
　　主を恐れる者の上にある。
　　主の義はその子らの子に及び、
18主の契約を守る者、
　　その戒めを心に留めて、行う者に及ぶ。
19主は天にその王座を堅く立て、
　　その王国はすべてを統べ治める。
20主をほめたたえよ。御使いたちよ。
　　みことばの声に聞き従い、
　　みことばを行う力ある勇士たちよ。
21主をほめたたえよ。
　　主のすべての軍勢よ。
　　みこころを行い、主に仕える者たちよ。
22主をほめたたえよ。
　　すべて造られたものたちよ。
　　主の治められるすべての所で。
　　わがたましいよ。主をほめたたえよ。



それは祈る心、

神様がお聞きになるその心の声、

そして、その声にお答えになるみ心

ジーンニコラス・グルー
祈りの方法

覚えていてください…

午後の熟考

構造的に読む上での考慮点

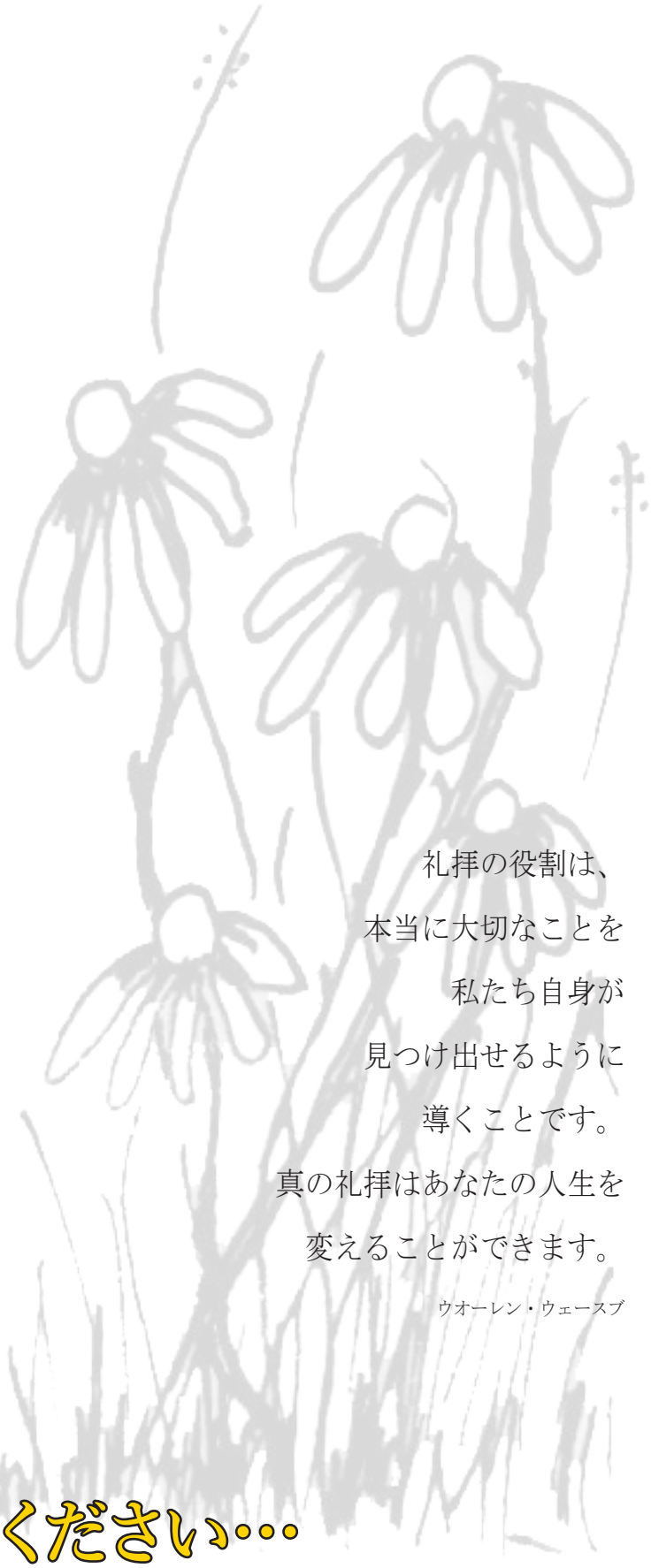
- 詩の始まりと終わりに注目する:1−2節と20−22節。この二つの賛美への呼びかけで似ている点は何ですか?異なっている点は何ですか?始めと終わりの共通点と相違点を説明するために本文の展開はどうなっていますか?主をほめたたようと心に決めることがどのように主の賛美の仕方に影響を与えますか?
- 詩篇の中で「主よ」で始まる聖句に下線を引いてください。それらの聖句を吟味し、なぜ神様は賛美に値するお方だと思いますか? そこに託された意味をよく理解するために、それぞれの節の後に続く節を参考にしてください。ここに述べられたことは単なる一覧ですか?それともこの順番にこだわった理由や展開に気づくことができますか?

神学的に読む上での考慮点

- 神について、人について、神と人との関係ついて何が話し合われたか考えてください。その話し合いが、あなたと神様との関係をどのように見るかに影響を与えましたか?
- 上記に挙げたことを思いながらアートの課題に取り組んでください。
- その過程で神様があなたに語られたことは何ですか?このページを使って神様が語られたメッセージについて書いてください。

祈りに満たされて読む上での考慮点

- この詩篇を祈るように読んだ後、体を伸ばしたり、深呼吸をしたり、自然の中を散策したり、あるいはあなたがしたいことがあればなんでも自由に行動したりして、主が語ることに引き続き耳を傾ける時間を持って下さい。読み進めながら神様のヘセドがあなたに溢れ出るように、あなたがヘセドを他の人に示すことができる方法を神様に示していただけるようにゆだねてください。



礼拝の役割は、
本当に大切なことを
私たち自身が
見つけ出せるように
導くことです。
真の礼拝はあなたの人生を
変えることができます。

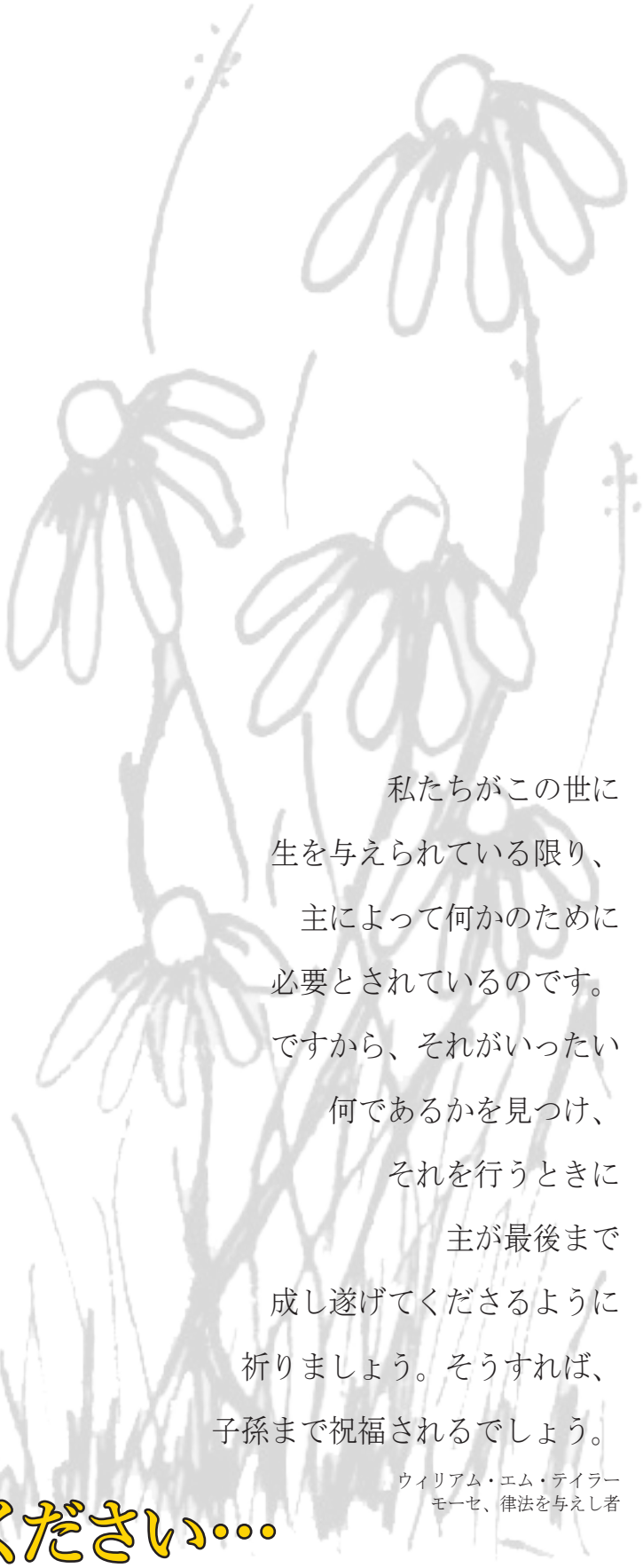
ウオーレン・ウェースブ

覚えていてください…

ジャーナル

金曜日

午後の話し合いを受けての考察



私たちがこの世に
生を与えられている限り、
主によって何かのために
必要とされているのです。
ですから、それがいったい
何であるかを見つけ、
それを行うときに
主が最後まで
成し遂げてくださるように
祈りましょう。そうすれば、
子孫まで祝福されるでしょう。

ウィリアム・エム・テイラー
モーセ、律法を与えし者

覚えていてください…

ジャーナル

土曜日

自分の考えをまとめる

- 詩篇103に関しての今週の学び、黙想、祈りから見えてきたことは何ですか？
- 今週家に帰った際に、その思い考えは自分の生活のどこで特に役立つと思いますか？

私たちは持つに
価するすべての
ものを待ち望ん
でいます…
神さえも。

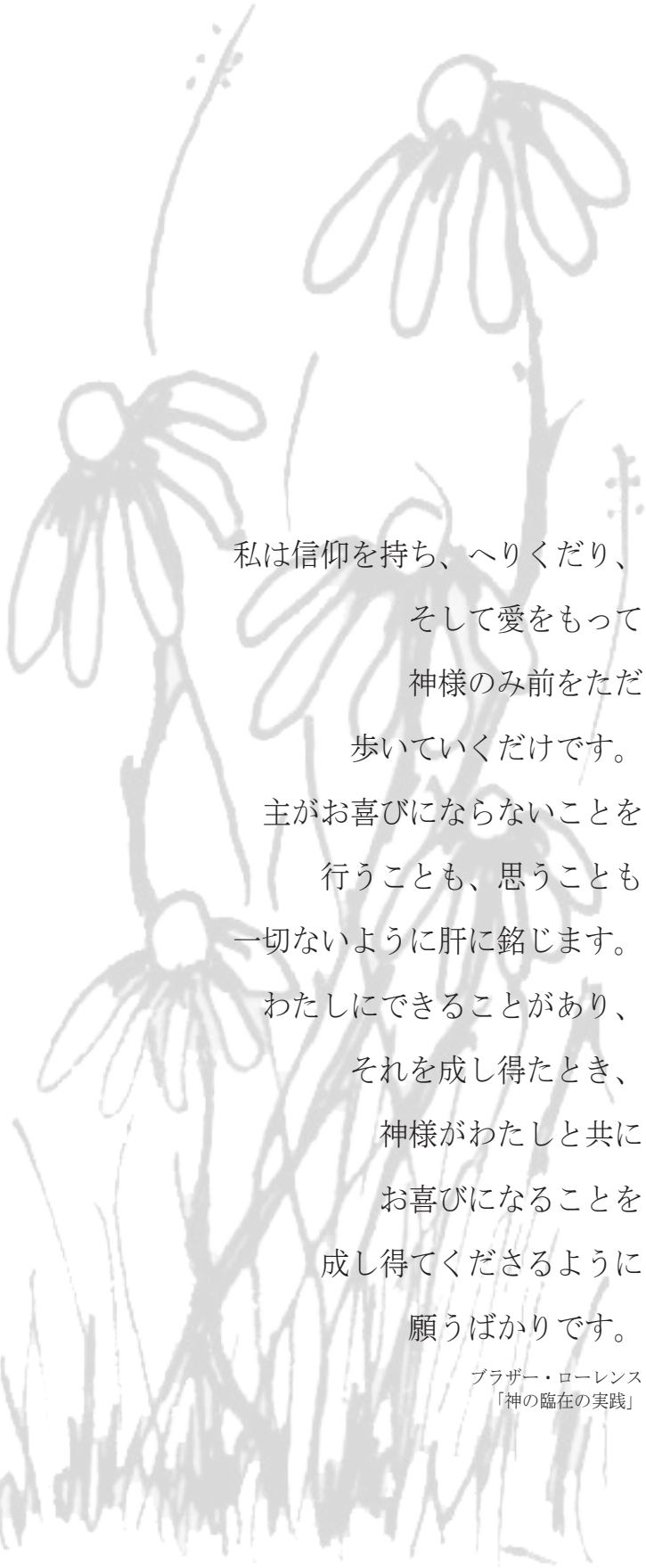
アントニー・パドヴァーノ

慈しみ…

ジャーナル

土曜日

個人でのジャーナル



私は信仰を持ち、へりくだり、
そして愛をもって
神様のみ前をただ
歩いていくだけです。
主がお喜びにならないことを
行うことも、思うことも
一切ないように肝に銘じます。
わたしにできることがあり、
それを成し得たとき、
神様がわたしと共に
お喜びになることを
成し得てくださるように
願うばかりです。

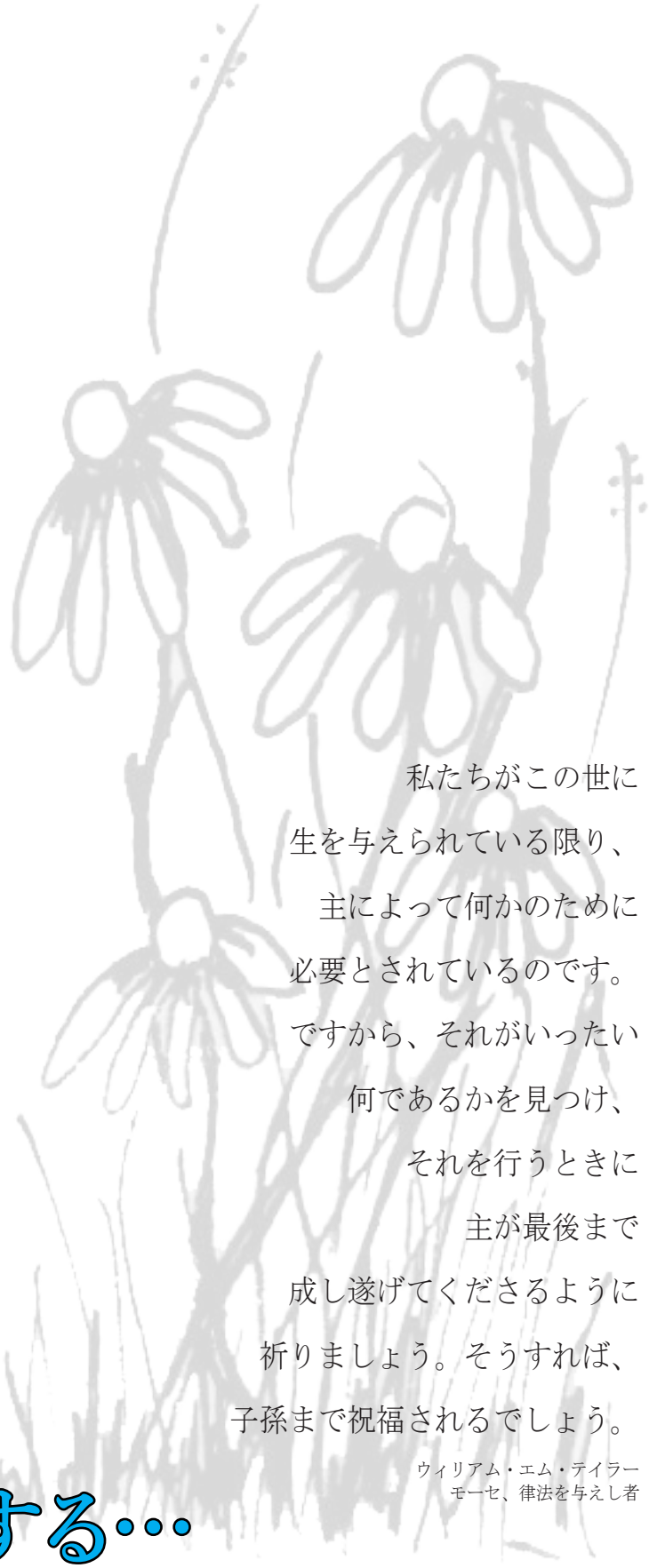
ブラザー・ローレンス
「神の臨在の実践」

慈しみ…

ジャーナル

日曜日

個人でのジャーナル



私たちがこの世に
生を与えられている限り、
主によって何かのために
必要とされているのです。
ですから、それがいったい
何であるかを見つけ、
それを行うときに
主が最後まで
成し遂げてくださるように
祈りましょう。そうすれば、
子孫まで祝福されるでしょう。

ウィリアム・エム・テイラー
モーセ、律法を与えし者

祝福する…

父親が慈しみ深いように…

主はご自分を恐れる者をあわれまれる。主は、私たちの成り立ちを知り、私たちがちりにすぎないことを心に留めておられる。

詩篇103：13−14

ドイツの教会の建物
２００５年１１月

詩篇の構成

付録Aに示されている資料の大部分はピーター・シー・クレイグとマーヴィン・イー・テイトの共著「聖書解説：詩篇1−50、19版（ネルソン社2004）25−31」からの抜粋によるものです。

付録　A

詩篇が書かれるずっと以前から古代イスラエルには歌と祈りは存在していました。ヘブル語の聖書にあるいくつかの例を以下に示します。

- 海の歌（出エジプト記15:1−18）
- 契約の箱の歌（民数記10：35−36）
- バラムの予言（民数記23−24）
- モーセの歌（申命記32）
- モーセの祝福（申命記33）
- デボラの歌（士師記5）

このような賛美の多くは称賛や勝利の歌に分類されます。一方で教訓や祝福、また預言として歌われたものもあります。音楽に合わせるようなものもあれば、多様な公的礼拝としての典礼に使われたものもあります。初期のイスラエルにとって詩というものは、ごく身近な存在であったというだけでなく、ヤハウェの神との関係、または人との関係において 、祈りや、賛美、知恵、礼拝、嘆きといった人間が持つ心の奥深い感情や経験を個人や共同体に対して最も豊かに表現できる手段だったのです。何世代にも渡って受け継がれながら、このような歌と祈りは歴史的背景のあらゆる側面を反映しつつ、イスラエルの独自性を形作っていきました。

これらの作品がいつ収集されたのか正確には分かりませんが、そのプロセスは何世紀にも渡って行われてきました。一人の作者の作品の収集ではなく、むしろ多様な背景や状況にある多くの作者によって構成されていると言ってよいでしょう。収集の過程で、作品を保存しようとする人々によって、歌や祈りは検閲されたり編集されて来ました。詩篇においても同様のプロセスが見られます。

詩篇が集められた過程を全て確認することはできませんが、詩篇から分かる手がかりを頼りに、大きく4つの段階に分けることができます。(a)賛美歌が書かれる(b)一つのまとまった小歌集として他の賛美歌と関連づける(C)いくつかの小歌集をまとめて大きなまとまりを構成する(D)現在の詩篇は、編集者（たち）がひとつひとつ様々な詩を編纂してまとめた数々の小収集を集めて作ったひとつの最終作品としてまとめられたものである。

詩篇を調べようとする者ならだれでも、このプロセスの鍵をみつけることができるはずです。ただし、そのようなプロセスを見つける目を自ら鍛える必要があります。まず初めに、詩の最初にタイトルが書かれていることがよくあります。タイトルはその詩が作られた背景を説明するのではなく、むしろ小さい歌集のどこにその詩が収められたかを特定することでつけられた場合がほとんです。第2に、詩篇72:20「エッサイの子ダビデの祈りは終わった。」に見られるこの結びは詩篇全体というよりむしろダビデの初期の歌集の最後を表しています。これ以降の詩篇の歌もダビデの作品だと考えらえています。第3に、詩篇にはそっくり同じものがいくつもあり、それらは元々はそれぞれ別の歌集に属していたことを物語っています。ですから複数の歌集が集められた際に、同じ詩の繰り返しが生じたのであろうと思われます。例として詩篇14と53、40:13−17と70、108と57:7−110+60:5−12が挙げられます。

詩篇の基本歌集の中には見分けるのが容易なものもありますが、見分けるのが難しいものもあります。より顕著なものを以下に示します。

・ダビデの歌集－詩篇3－41（恐らく33を除く）；詩篇51－70（66と67は除くと考えられる）；詩篇138－45。この3つの歌集にはダビデの73の 全ての賛美が含まれているわけではありません。
また、他の箇所にも小歌集があるとも言えるでしょう。（例.詩篇108－110）ダビデが書いた他の歌は、初めは歌集に属していたが神学的または、典礼的な理由によって詩篇の他の場所に移されたと考えられます。

・ アサフの歌－この歌集はたぶん詩篇50と共に詩篇78－83までになります。アサフはレビ人の音楽家でダビデの生涯において礼拝音楽の第一人者でした。（1歴代誌14:17－19、16:4－5）そして彼の子孫がこの伝統を受け継ぎました。（エズラ3:10）

・ コラの息子たちの歌－詩篇42–49（43を除く）と詩篇84－88（86を除く）の2つの歌集と考えられる。ケハテの子孫：コラの子たちは神殿音楽に従事したレビ人。（1歴代誌6:22）

・ 都上りの歌－113－118は伝統的には過越の祭と関連し、詩篇146－150（前者、後者ともハレルヤ賛美歌として知られる）は礼拝により一般的に用いられた。

基本的に詩篇を読む上で、最終的に検討しなくてはいけないことの一つに全体的な構成があります。編集者は詩篇を5つの巻きに分け、その一つ一つを頌栄で結んでいます。その分類を以下に示します。

・ 1巻目－詩篇1－41
頌栄：ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえからとこしえまで。アーメン。アーメン。（詩篇41:13）

・ 2巻目－詩篇42－72
頌栄：ほむべきかな。神、主、イスラエルの神。ただ、主ひとり、奇しいわざを行う。とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。その栄光は地に満ちわたれ。アーメン。アーメン。（詩篇72:18－19、20節も同様）

・ 3巻目－詩篇73－89
頌栄：ほむべきかな。主。とこしえまでも。アーメン。アーメン。（詩篇89:52）

・ 4巻目－詩篇90－106
頌栄：ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。すべての民が「アーメン」と言え。ハレルヤ。（詩篇106:48）

・ 5巻目－詩篇107－150
頌栄：息のあるものはみな、主をほめたたえよ。ハレルヤ。（詩篇:150:6、この詩のすべてが詩篇全体に対して頌栄の役割を果たしている。）

詩篇の歌のタイプ

ジョン・ディ・ウィットヴィリエット著「クリスチャンの礼拝における聖書」
要約と資料ガイド（グランドラビッズ。アードマンズ社2007年）70−71

付録　B

救いの歴史の歌	神様のみわざに感謝する歌。それはまるでイスラエルの民と共にあった神様の救いのみわざの歴史の総まとめとして読み進めることができる。（詩篇78,105と136）
嘆きの歌	人生の崩壊や痛みについて神様に対する嘆きの言葉で始まる歌。嘆きのほとんどは怒りの表現から信頼や祝福の表現へと変化する。学者によって「共同体の嘆き」（詩篇87と137）と「個人の嘆き」（詩篇3、22、42）とに分類される 。
感謝の歌	学者によって「共同体の感謝」（詩篇124）と「個人の感謝」（詩篇116）に分類される。
賛美の歌	神様をほめたたえることに焦点を合わせた歌。たいていは神様のあり方や性質に言及している。
知恵の歌	信仰にあふれた生活についての知恵を示している箴言の性質を映している歌。
律法の歌	神の律法の美徳を賞賛すると同時にとその律法の一部を説明している歌
信頼の歌	詩篇の主題としての信頼を表している歌（詩篇11、23、27）
契約更新の典礼	信仰深い祈り、契約の祈り（または約束に基づく）の大切さを教えている歌
王の歌	イスラエルの王たちに言及した歌。救世主を信じるクリスチャンは、このタイプの詩はイエスを示すと考えるのが一般的です。（詩篇2、72、110）
シオンの歌	エルサレムの神殿のあったシオン山の美徳を賞賛することで神様の臨在の美しさに焦点を当てている。（詩篇46、84、122）
即位の歌	王に向けて、または王についての歌。創造物の支配者としの神様のイメージを強調する歌。（詩篇24、27、95−99）
都上りの歌、巡礼者の歌	エルサレムに巡礼に向かう人々が歌った歌　（詩篇120−134）

詩篇語彙集

付録C

付録Cに示されている定義の多くはC. ハッセル・ブロックの著書「エンカウンター・ザ・ブック・オブ・サムズ」のp.249-251からの引用です。

つぎに挙げた言葉にはもっと一般的に使われている意味がありますが、ここでは詩篇を学ぶ目的に合わせて特別に選ばれた語彙を紹介します。

歌集
編集者によって集められた詩のコレクション。

配列（キアズム）
ヘブル語の詩の特徴の一つ。一連の考えを鏡に映し返すように並べる手法。例えば、3つの考え a. b. c.が与えられていたら、キアズム手法では、a.b.c.と表現された後c.b.a.と順番を入れ変えて繰り返されることでポイントとなる部分が強調される手法。この場合、Cが強調されるポイントです。

契約
二者間で結ばれた同意。聖書では神様と選ばれた人々の関係を表す時によく使われる言葉。神様とアブラハムとの間で結ばれたような契約は、人間側の振る舞いに構わず、神様が神様ご自身に課せられた義務を表しています。しかし、モーセ契約のような契約は、神様と人々の両者が負う責任を示しています。モーセ契約は、征服王と隷属国で結ばれた古代の条約に似ています。

創造
神様の言葉によって創造されたあらゆるもの。詩篇の作者にとって単に始まりを表す言葉ではなく、それ以上に、この地の所有者は神様であり、肉体と理性の両方を完全に支配するのも神様であるということを証明する教義のカギとなっています。神様を創造主と認めることは、み業の中にある完全な正義と完全な裁きを確信することにつながります。

頌栄
神様を褒め称える言葉。褒め称えるための特別な歌で頌栄と呼ばれるもの。詩篇全体および歌の一部分に見られます。

釈義
書かれた時代の読者にとって、その文章が意味するところを見極めようと、聖書を学んだり読んだりするプロセス。

出エジプトまたは紅海
神様はヘブル人の奴隷たちを圧制者から救い出すために紅海を分けた。イスラエルの民はその海に入って行きましたが、反抗的で罪深い民はパロが近づいてくるのを見て不信仰にも、モーセに「エジプトには墓がないので、あなたは私たちを連れてきて、この荒野で、死なせるのですか。」と叫びました。（出エジプト14:11）彼らは海の乾いた地を渡り、神の贖われた民となりました。「あなたが贖われたこの民を、あなたは恵みをもって導き、御力をもって、聖なる御住まいに伴われた。」（出エジプト15:13）詩篇の歌の作者達は、讃美と霊的内省を呼び起こすために、このイスラエルの民の話を繰り返し用いています。

ヘセド
確固とした愛や慈しみと訳され、神様の創造物に対する誠実で、永遠で、つきることのない愛を表しています。

正義
全ての行動や態度が照らし合わせられる聖なる基準。讃美歌作者は「正義」を神の資質の中心、創造の支柱、また、律法が語ることと捉えました。「正義」は人々の中で実現されるべきであり、神様の永遠に変わることのない愛の反映であり、受け取るだけではなく与えられるべきものであるとされました。バビロン捕囚以前の神様の預言者達は、国の指導者達に神様が求める公正と義が不足していることを繰り返し警告し非難してききました。正義は互いに与えられるものであったのです。

嘆き
讃美歌作者は苦しい時、ヤハウェの神に助けを求めました。嘆きは、個人が苦しみにあるときや共同体が国家的困難にあるときに訴えられました。

礼拝（典礼）
共同体礼拝の儀式。多くの歌はイスラエルの礼拝の典礼の一部分でです。

主、ヤハウェ
ヘブル語のヤハウェという言葉は、文字どおり「主はおられる」という意味であり、出エジプト3:14で「わたしはある。」との燃える柴をとおしてモーセに神の名前を示された時の名前でです。ヘブル語で神を表すこの名は、とても聖なるものでイスラエルの民は声を出して言えないほどである。ヘブル語の文章では大部分は発音できない子音で表されます。英語の聖書では、ヤハウェの名を用いる場合は小文字で示すことが多い。

メシア
聖別された者。詩篇では、平安で人々を祝福する「王」と神様との特別な関係を表している。それ故、イスラエルの王たちは、「メシア」と呼ばれ、聖別された地上における神の子たちとみなされました。しかし、王たちの失敗、またバビロン捕囚の間神様がお与えになった度重なる 試練によって、預言者たちは一人の「王」一人の「聖別された者」一人の「メシア」へと見る方向が定められるようになりました。この王は、イスラエルとユダヤの王たちにまさに欠けていた正義と公平であるとされました。この王によってその王国を永遠に治められるのです。

メタ・メッセージ
ひとつの文で語られる総合的なメッセージ。

メタファー（暗喩）
一つの事柄を異なるものに言い換えられる修辞技法。
例え）「主は私の羊飼い」

平行論、対句法
ヘブル語の詩的工夫で、一連の詩が2つまたはそれ以上 の部分から構成され、それぞれがバランス良くお互いに補い合いながらひとつの完成された詩とされるもの。時には、最初の部分と同様の内容を平行して繰り返したり、または、相反する概念で対比したり、あるいは、拡張したり、強調したりします。

詩篇（英語ではPsalmが一般的に詩篇を表し、日本語では同じ詩篇になる）
もう一つの詩篇の呼び名。歌の本や賛美歌に似ている。

リフレイン
詩の中で繰り返される表現。一定間隔で繰り返される。

義
神様を尊び、崇めることによってお仕えになる神様が反映される生活。神は聖なる方だから清くなりなさい。捕囚の前から神の預言者たちは、たびたび国の支配者たちに神が求める実、すなわち公平と義が不足していると警告し非難してきました。義は主に神様に対する畏敬の念から現れる個人の信心深さに寄るところが多いとされています。

第2神殿ユダヤ教
エルサレムに再建された神殿において発展し、守られたユダヤ的宗教。この第2神殿は紀元前520年頃に建てられ、紀元70年に破壊されました。第1神殿は紀元前586年のバビロン捕囚の時に破壊された。詩篇は第2神殿時のユダヤ教の歌の本と呼ばれることもあります。

セラ
詩篇に71回登場するヘブル語。意味は不明。音楽的または典礼的なイメージのある言葉であろうと考えられています。

シマリー
2つのものを比較する修辞技法。例）「人の日は草のよう」（詩篇103:15）

構成
詩篇の歌の各部分が意味を持たせるために互いにリンクしたり機能すること。

詩篇語彙集

テレスコーピング
ヘブル人たちは現在を過去に始まった神の働きの単なる続きとして、また、未来は過去に与えられた祝福に預かることだと考えていました。これによってイスラエルは信仰という一つのレンズを通して、過去、現在、未来を見ることによって過去を希望を持って祝福しました。例えば、モーセが神様の契約について第2世代のヘブル人たちに説教をした際には、その契約があたかもその世代の人々との間で結ばれたかのように話しました。しかし、実際には、その契約は彼らの先祖たちに対して語られたのです。（申命記5:2-3）

トーラー
旧約聖書の最初の5書を表す言葉。「律法」や「教え」と一般的には理解されています。

ヤハウェ主
P.54の「LORD：主」を参照。

神様の本質を理解する： ヘセド

ジャネーン・リースによる解釈

付録　D

ヘブル語で愛情あふれた親切、人を裏切らない愛、誠実な献身を「ヘセド」という言葉がありますが、ヘブル語の聖書にもよく使われています。ヘセドという言葉自体はごく普通の言葉ですが、神様の性質を表すのに用いられるようになって特別な意味を帯びるようになりました。「ヘセド」は説話文学で初め使われていましたが、特に詩篇で頻繁に使われるようになりました。預言的文学では、まとめの結びの一部として、または神学的に繰り返し使われる表現として多く使われるようになり、神の本質とイスラエルの民の罪深く、不信仰で愛に欠ける応答に対してどのようにこのヘセドが与えられたかをイスラエル人たちにたびたび思い出させたのです。

「ヘセド」のいくつかの主要素は人間とともに発展してきたその経過から判断することができます。

1. 「ヘセド」は通常は単数形で用いられ、具体的には関係を表すのに用いられます。「善を行う」という表現に置き換えることができ、以下どのような関係の時に「ヘセド」が用いられるかの例をいくつか示します：
   - 親類縁者の関係：サラとアブラハム（創世記20:13）
   - 主人とお客の関係：アビメレクとアブラハム（創世記21:23）
   - 友人間の関係：ヨナタンとダビデ（1サムエル20:8、14）
   - 統治者と臣下：アブネルとサウルの家（2サムエル3:8）
   - 特別な親切な行いゆえに任命された2人の当事者の関係：囚人とヨセフ（創世記40:14）
2. 一般的に「ヘセド」な行為を受ける者は、受けた行いと同様の「ヘセド」な行いを返すことが期待されます。しかし、文脈的に相互関係がはっきりしない場合でも、婚姻関係にあるもの同士、親子、近しい血縁者や友達などのような極めて近い関係であれば容易にその相互関係は想像できるはずです。
   - 夫と妻：アブラハムとサラ（創世記20:13）
   - 父と息子：イスラエルとヨセフ（創世記47:29）
   - 血縁者：ラバン、ベトエルとイサク（創世記24:49）
   - 友人：フシャイとダビデの関係（2サムエル16:17）
3. 創世記24:49、47:29、ヨシュア2:14では、ヘセドとともに使われている言葉があり、それによってヘセドの表れ、または約束の変わることがなく、確固たる、そして永遠に続く真実性を強調しています。
4. ヘブル語聖書において、「ヘセド」のもう一つの重要な特徴は、人のとる行動に影響を及ぼすことである。（箴言11:17、14:22、21:21、ルツ3:10参照）「ヘセド」（親切）は「ミスパット」（正義）を行うことと並行し、両者ともどのような場合においても民の神によって課された道徳上の 必要条件でした。（ミカ6:8、ゼカリヤ7:10、マタイ5-7参照）

「ヘセド」の観念が神の人間に対する必要条件へと変化して行きながらも、相互関係において変化が現れています。やもめや孤児、日雇い労働者や貧しい者に対して、受けた親切の見返りは期待することができないのです。その代わりに神様が「ヘセド」を施します。（エステル2:9、創世記39:21、エズラ7:28、9:9、ダニエル1:9参照）これらの出来事を通して神様の祝福は、人の「ヘセド」の行いの代わりの役割を果たし、「ヘセド」の相互関係を無効としたのです。（ルツ3:10、ネヘミア13:14参照）

興味深いことに契約は「ヘセド」に必要な条件ではなく、その副産物となりえることです。もちろん、契約は家族関係の中心に位置しますが、他人との関係においてはそうではありません。アブラハムとアビメレク、ラハブとイスラエルの物語では、「ヘセド」は前者から後者へと与えらています。親切な行動の結果として、アブラハムはアビメレクと末長く続く契約を結び、ラハブは彼女の父の家とのイスラエルとの間での契約を願い、イスラエルがその願いを叶えられました。このことから「ヘセド」は契約に先立ち、また、契約を押し広げていくものであることが理解できます。

これまで示した全ての「ヘセド」についての理解は、ヤハウェ—神様の愛情あふれる親切な行為は、関係性を保ち、相互に関連しあい、いつまでも続き、またその収まるところを知らない、ということにも当てはまります。創世記以降の語り継がれた歴史の中には、主は絶え間なく様々な方法で様々な人々に思いやりを示してきた事実を見ることができます。しかし、ヘブル語聖書の中心的なテーマを構成しているのは、イスラエルに対する神様の「ヘセド」の証明です。

神様の本質を理解する： ヘセド

ジニーン・リース

付録　D（続き）

イスラエルが国を形作り、神の民と呼ばれるようになると、ヤハウェの愛情あふれる親切は歴史を形成するだけでなく、さらに歴史を前へ推し進めました。「ヘセド」は神の目的を持つようになったのです。

1. 出エジプト記では、神はイスラエル人の先に立ち導くと同時に、イスラエル人を神の民としていきました。モーセは、束縛から民を解放するために、民を導いて紅海を渡りながら神の「ヘセド」を歌いました。（出エジプト15:13）

2. 神様はシナイ山でモーセを通して律法を与え、信仰に基づいてイスラエルと契約を結びました。最終的にもっとも近しい関係を築くことから生まれる「ヘセド」は、その相互性、共通性より契約の中心となりました。（出エジプト20:4-6）

3. イスラエルは神の「ヘセド」をいつも返していたわけではありません。人々は、たいてい不信仰で、愛情少なく、偶像を拝むようになります。神様は彼らを罰しながらも、神様は神の真の本質から離れることはありません。出エジプト記34章で描かれている場面は、詩篇103編の作者が神の愛情ある性質について書く際に心に留めた場面です。そのためその歌が契約の歌として高く評価されている所以です。

   「主、主はあわみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵とまことに富み、恵みを千代に保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。」（出エジプト34:6b-7）

イスラエル人の信仰は、神様の愛あふれる親切な祝福で満ちて生きるという絶え間ない望みと期待に置かれていました。神に選ばれた民の神への自然な反応は、様々な礼拝の形で表されました。賛美で神を褒め称え、神が誰であるか告白し、神の「ヘセド」への感謝と確信を表し、神の不動の愛が示されるように嘆きの中に申し立てました。

同様に、神の「ヘセド」を受け取り、「ヘセド」を強く待ち望む生活をし、「ヘセド」に目を向けて礼拝することは、神の民がより愛情あふれる思いやりや、良い心や忠節で満ちあふれた生活を送れることを意味します。そして「ヘセド」にある生活を送るための必須条件よりもさらに先に進むことを許され、「ヘセド」の特権を十分に喜び味わうことができるのです。

「ヘセド」は神の真の本質と強く結びついている....神は「ヘセド」であり、「ヘセド」は神である。

詩篇の概要

ジニーン・リース

詩篇はイスラエルの信仰生活の長い歩みを反映する歌や賛美、祈りを集めたものです。実際、詩篇は様々な歌集を集めた一つの大歌集であり、第2神殿時代のユダヤ教の礼拝マニュアルの役割を果たしました。詩篇は、イスラエルの発展の歴史において、大きく分けて3つの時代を超えて発展しました。

イスラエルの礼拝の在りようを映し出すような歌、賛美、祈りが集められています。

1. イスラエルの物語（捕囚前）
    - アブラハムとの契約（創世記12:2;15:5;17:4, 5; 18:18; 22:17; 28:14; 32:12; 35:11; 46:3）
    - エジプトからの救済：神がその民と結んだ新しい契約（出エジプト、民数記、ヨシュア記）
    - 王たちと神がダビデと結んだ契約
        - o 神の聖なる都として建てられたエルサレム
        - o 神殿建立（1列王記5−11）
    - 王国の分裂（1列王記12−22）
2. イスラエルの物語（捕囚）：
    - 紀元前586年の第1神殿とエルサレム崩壊；イスラエルのバビロン捕囚
    - クロス王がイスラエルの民を祖国に返す（エズラ1−2；神殿の再建を命令する）
3. イスラエルの物語（捕囚後）：
    - 第2神殿ユダヤ教：「ヘセド」がヤハウェの本質の中心であることが明らかになる
    - この物語によって、神の真の主権と神の支配のもとにある人生が明らかになる

全体としての詩篇:

詩篇は様々な経験や感情、必要を反映した個々に書かれた作品から始まります。それらの作品が収集されるまでの過程で詩篇全体に対する「メタメッセージ」が作られます。書簡がメッセージの中で解き明かされるように、詩篇でも同様に解き明かされて行きます。詩篇のメタメッセージは2段階に分かれているといえます。

1. 頌栄によって分類された5書:
    - 第1巻−詩篇1−41；ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。アーメン。アーメン。
    - 第2巻−詩篇42−72；ほむべきかな。神、主、イスラエルの神。ただ、主ひとり、奇しいわざを行う。とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。その栄光は地に満ち渡れ。アーメン。アーメン。
    - 第3巻−詩篇73−89；ほむべきかな。主。とこしえまでも。アーメン。アーメン。
    - 第4巻−詩篇90−106；ほむべきかな。イスラエルの神、主。とこしえから、とこしえまで。全ての民が「アーメン」と言え。ハレルヤ。
    - 第5巻−詩篇107−150；最後の歌全体が詩篇全体に対する頌栄となっている。

2. 詩篇の継ぎ目を読んで洞察する:
    - 詩篇1章・2章は詩篇全体を紹介している。
        - o 詩篇1章は、トーラー（ヘブル語聖書の最初の5書に詩篇が追加されたとされているモーセ五書）を瞑想する人々を祝福している。
        - o 詩篇2章は、神と王に焦点が当てられている。ここでは、一人息子が王座にある；全ての者がひれ伏す。詩篇全体をとして王に焦点が当てられている。
    - 詩篇3章は、王が引き起こす問題が示されている。詩篇で嘆きを最初に歌ったのがダビデや王族の歌であった。
    - 1巻の終わり：詩篇41−全てが順調ではない。
    - 2巻の終わり：詩篇72−物事が好転するように願う王のための長い祈り
    - 3巻の終わり：3編
        - o 詩篇88−詩篇の中で最も暗い詩
        - o 詩篇89−大きく相反する歌
            - ・神が忠実なるお方であることを大いにほめたたえることから始まる
            - ・神が契約を守らないことを責める作者。詩篇2章のメッセージを打ち砕く性質を持った歌。
    - 第4巻は葬送歌で始まる。
        - o 詩篇90−神の怒りがどのくらい続くのかを尋ね、人生の儚さに焦点を当て、神との恵まれた関係を失ったイスラエルを嘆いている。

- o 詩篇92－詩篇1章と同様のテーマが示され、作者がもう一度ここから詩篇を始めているようである。
- o 詩篇93－詩篇2章と平行し、主が王であることが明確に示されている。主を褒め称える言葉遣いに変化が見られる。(詩篇95:3、96:10、97:1、98:6、99:1、4他参照)

詩篇を全体として見た見解:

- 期待と体験が相反する。そこで、礼拝が個人のみならず集団的に全く新しい現実の体験を思い描きながら神との約束を再び自分たちのものとさせる場所となる。イスラエルにとっては、問題は神に関してであり、その問題に対して人々に声を上げさせる必要性があった。

詩篇全体をひとつの書として見ると、詩篇の作者の特別な歴史的背景を理解することができます。そして、その背景は様々な状況に置かれた神の民の心境をより深く語ってくれます。

- 最初の詩篇の3巻は捕囚時と捕囚前の体験を表していて、詩篇の初めの90の歌に51もの嘆きの歌が収められている。さらにその最初の3巻には、知恵や教えに関する歌がより多く収められている。

- 神をほめたたえる歌のほとんどが第4巻と第5巻に収められている。－治める者、それは神

- ウオルター・ブルガーマンが詩篇のオリエンテーション、ディスオリエンテーション、リオリエンテーションについて述べている。この3つの分類はイスラエルの捕囚前、捕囚時、捕囚後に該当する。プルガーマンによるアウトラインは以下である。
  - o 詩篇のオリエンテーション(方向付け):詩篇1－2
  - o 詩篇のディスオリエンテーション(方向性の喪失):詩篇3－89
  - o 詩篇のリオリエンテーション(再方向付け):詩篇90－150

- 詩篇を礼拝で読む際には、マクロとミクロの視点で捉えることが重要である。詩篇はいつ読んでも信者は心を揺さぶられる。読み手は、その当時の文脈を思いながら読むことによってその歌に込められたであろう意図だけでなく、その詩に現れている動きをも見ることができる。

- 詩篇が選りすぐりの選歌集であることを理解することは、特定のタイプの歌(付録B参照)を理解するだけでなく、意味を持って読まれるようにグループ分けされることを可能にする。詩篇22章と23章がその例である。

- 詩篇の歌は多様な礼拝体験を提示し、礼拝がどのように共同体を形成し、知恵を教えることが賛美につながる かを示している。

- 詩篇の反体制的な招きは、イスラエルの形成や神を礼拝する共同体には常に極めて重要であった。

詩篇の構成を考察する

カレン・アレクサンダー

付録　F

詩篇の歌のレベルは 多岐に渡りますが、その多くは私の持っている能力とは比較にならないほどの熟練者の技術が必要であることは言うまでもありません。しかしながら詩篇も他の作品と同様に、その言葉と基本構造に注目することで作品をより深く理解することができます。この貴重な文献をさらに奥深く読み進める時に役立ついつくかの考えを示していきます。

1. 歌のジャンルを定め、詩のそれぞれの句をその決まった配置と照らし合わせてどの位置に属するかを細かく見ていきます。例えば、神をほめたたえる歌は3つの部分から構成されます。
    - 賛美への招き
    - ほめたたえる理由
    - 賛美の頌栄や表現

    詩篇は全体を通してこのアウトラインに沿っているか、あるいはこのアウトラインが詩に繰り返し使われていると言うことができるのではないでしょうか。
2. 始まりと終わりはどうなっているでしょうか？
    - 始まりと終わりの文章の節を見つけます。
    - (終わりと比べて)始まりに特徴的な点は何か？(始まりと比べて)終わりに特徴的な点は何か？
    - 始まりと終わりで共通していることは何か？
    - 始まりと終わりにどんな関連性があると言えますか？
3. 詩篇の主部に基本となる構成はありますか？
    - 一つのまとまりの節の始まりと終わりはどこですか？
    - それぞれの節のポイントは何ですか？また、それがどうしてそれがポイントとなるのでしょうか？

    ひとつに並べまとめられる時、その全ての節は全体で何を伝えようとしていますか？
    - 節はどのように関係していますか？
        - お互いに？
        - 始まりと終わりの関連は？
4. 総合的に見て、歌の作者の一番伝えたい目的を見つけることができますか？

基礎的構成を見つける方法：

言葉に注目することによって、詩篇の歌の構成を解くことができます。他の作品同様、言葉の繰り返しや言葉同士の関連性や、相対する言葉に気づくことで詩の中心点を見つけることができ、詩の意図されるべきそれぞれの部分に目を向けることができ、その詩の意味を発見することができます。次のことに注意してください：

- 繰り返し使われている言葉、同一のフレーズや関連した表現
- 詩の作者の意図したポイントを言い直したり、強調したり、詳述する並列構造
- 品詞、特に動詞と動詞同士の関係；そのほかに：
    - 類似している形容詞と副詞、似ていない形容詞と副詞
    - 一連に並べられた表現の部分、それぞれの関係、順序や時間系列に注意を払います。
    - まとめとしての言葉や「それ故に」に続く文章
- 含みのある言葉遣い：例：
    - ヘセドー主の不動の愛、永遠の愛
    - 聖書箇所の出典のために、紅海を「海」と表すよう短縮表現された場所

注意点：

- 詩篇は音楽的な詩である；感情を掻き立て、読み手の心からの反応を呼び起こします。ゴードン・フィーは「詩篇の歌を教義の体系を教えているかのように読むのは危険である」と書いています。
- 例えに隠された本当の意味を探る；あまり文字どおりに取ったり拡大解釈しすぎないようにする。
- 詩篇の歌は目的を持って書かれています。真の意図から離れてしまうと、読み手はその意味を間違って解釈してしまいます。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。

「日の上る所から沈むところまで、主の御名がほめたたえられるように。」
詩篇　113:3

2006年

フィジーの日の出

評価

私たちの伝道活動に対する率直なご意見をお願いします。
皆さんに仕えることができてとても祝されました。

1. この修養会の経験から何を得たいと思っていましたか？

2. どのくらいその期待は満たされましたか？

3. リニューアルで一番の励ましとなったことは何ですか？

4. リニューアルで一番の助けとなったことは何ですか？

5. リニューアルで最も好きではなかったところを教えてください。できれば詳しく書いてください。

以下に示すリニューアルの各区分を1から5までの段階で表してください。1はあまり助けにならなかったまたは、あまり励みにならなかったで。5は最も助けになった、または最も励みになったを表します。説明が求められている箇所では、説明してください。

登録のプロセス 1 2 3 4 5
- オンラインでの登録 1 2 3 4 5
- カムビフォーウィンターとのリニューアル前のコミュニケーション 1 2 3 4 5
- 会場での登録 1 2 3 4 5

全体的な経験 1 2 3 4 5
- プログラムの質 1 2 3 4 5
- 資料の利用価値 1 2 3 4 5
- 人間関係の経験 1 2 3 4 5
- リニューアルの経験 1 2 3 4 5

物質的なアレンジ（施設、食事など） 1 2 3 4 5

養成ブロック 1 2 3 4 5

読解グループ（全体的な経験） 1 2 3 4 5
- 聖書の学びの経験 1 2 3 4 5
- 備えの経験 1 2 3 4 5
- 霊感を受けた経験 1 2 3 4 5
- 分かち合いのための準備 1 2 3 4 5
- 内省の時—全体的な瞑想経験 1 2 3 4 5
- 大グループでの話し合い 1 2 3 4 5

礼拝の時間……1 2 3 4 5

再生及び休憩時間……1 2 3 4 5

祈りの約束……1 2 3 4 5

少人数の祈り会……1 2 3 4 5

分かち合いの課題……1 2 3 4 5
　　経験……1 2 3 4 5
　　教育的価値……1 2 3 4 5
　　感銘度（土曜日の分かち合いの後で見たように）……1 2 3 4 5

祝賀会……1 2 3 4 5

プレゼント……1 2 3 4 5

閉会式……1 2 3 4 5

チームの全体的有効性……1 2 3 4 5
　　準備……1 2 3 4 5
　　対応性……1 2 3 4 5
　　愛のある気遣い……1 2 3 4 5
　　奉仕……1 2 3 4 5

追加のコメントがあれば書いてください。

Come before Winter

Renewal for God's leaders around the world

PO Box 203381, Austin, TX 78720
512.216.2060
comebeforewinter.org